

基準 6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

「目的」に示されている本校が養成すべき人材像は、学科及び専攻科が掲げている「学習・教育目標」（資料 1-1-①-5）の中に盛り込まれ、複数科目の中から指定条件分の単位修得によって各項目の修得が達成される仕組みとなっており、達成度評価基準を明確に定めている（資料 6-1-①-1, 2）。達成状況に関しては、「卒業（修了）要件確認表」（資料 6-1-①-3, 4）に基づいて、卒業判定会議（修了認定会議）の場において、達成要件を満たしているかを全教員によって確認し、最終的に校長が認定している（資料 6-1-①-5～8）。

資料 6 - 1 - ① - 1

準学士課程における学習・教育目標達成度評価基準

学習・教育目標の達成度評価基準 (機械工学科)

平成 24 年 4 月 1 日

教務主事 裁定

卒業認定に関する規則第 2 条第 3 号に基づき、次のとおり平成 20 年度機械工学科入学者用学習・教育目標の達成度評価基準を定める。

学習・教育目標		評価基準
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。	教育課程系統図で定めた<視野>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 46 単位以上を修得する。
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
	<意欲> 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。	「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<基礎>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 44 単位以上を修得する。
	<専門> 機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を身に付けている。	教育課程系統図で定めた<専門>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 66 単位以上を修得する。
	<展開> 習得した知識・技術をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。	「総合実習」「工学実験」「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得する。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。	教育課程系統図で定めた<英語>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 19 単位以上を修得する。

資料 6-1-①-1 続き

学習・教育目標の達成度評価基準 (電気電子工学科)

平成 24 年 4 月 1 日

教務主事 裁定

卒業認定に関する規則第 2 条第 3 号に基づき、次のとおり平成 20 年度電気電子工学科入学者用学習・教育目標の達成度評価基準を定める。

	学習・教育目標	評価基準
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 地球人としての視野をもって自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。	教育課程系統図で定めた<視野>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 45 単位以上を修得する。
	<技術者倫理> 技術が人類・社会・自然におよぼす影響や生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
	<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。	「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<基礎>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 43 単位以上を修得する。
	<専門> 電気・電子・情報通信分野の基礎理論、基礎技術の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<専門>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 39 単位以上を修得する。
	<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。	「電気電子工学実験」「卒業研究」「創造工学」を修得する。
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得する。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。	教育課程系統図で定めた<英語>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 19 単位以上を修得する。

資料 6 - 1 - ① - 1 続き

学習・教育目標の達成度評価基準 (電子情報工学科)

平成 24 年 4 月 1 日

教務主事 裁定

卒業認定に関する規則第 2 条第 3 号に基づき、次のとおり平成 20 年度電子情報工学科入学者用学習・教育目標の達成度評価基準を定める。

	学習・教育目標	評価基準
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。	教育課程系統図で定めた<視野>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 45 単位以上を修得する。
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
	<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。	「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<基礎>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 38 単位以上を修得する。
	<専門> 電子情報工学と関連分野の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<専門>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 36 単位以上を修得する。
	<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、電気・電子および情報・通信技術を融合し、新たな価値を生み出す能力を習得している。	「電子情報工学実験」「卒業研究」「創造工学」を修得する。
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得する。
	<英語> 英語による技術文書の記述・読解が出来る。	教育課程系統図で定めた<英語>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 19 単位以上を修得する。

資料 6 - 1 - ① - 1 続き

学習・教育目標の達成度評価基準 (生物応用化学科)

平成 24 年 4 月 1 日

教務主事 裁定

卒業認定に関する規則第 2 条第 3 号に基づき、次のとおり平成 20 年度生物応用化学科入学者用学習・教育目標の達成度評価基準を定める。

	学習・教育目標	評価基準
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺める。	教育課程系統図で定めた<視野>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 45 単位以上を修得する。
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚する。	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
	<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。	「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。	教育課程系統図で定めた<基礎>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 68 単位以上を修得する。
	<専門> 応用化学・生物工学に関する専門知識・実験技術を習得している。	教育課程系統図で定めた<専門>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 40 単位以上を修得する。
	<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。	「卒業研究」「創造工学」を修得する。
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得する。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。	教育課程系統図で定めた<英語>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 19 単位以上を修得する。

資料 6 - 1 - ① - 1 続き

学習・教育目標の達成度評価基準 (材料工学科)

平成 24 年 4 月 1 日

教務主事 裁定

卒業認定に関する規則第 2 条第 3 号に基づき、次のとおり平成 20 年度材料工学科入学者用学習・教育目標の達成度評価基準を定める。

学習・教育目標		評価方法
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。	教育課程系統図で定めた<視野>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 45 単位以上を修得する。
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
	<意欲> 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。	「卒業研究」「創造工学」の単位を修得する。
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学及び情報技術の知識の内容を習得し、それを活用できる。	教育課程系統図で定めた<基礎>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 47 単位以上を修得する。
	<専門> 材料工学科と関連分野の専門基礎知識、専門知識・技術を習得している。	教育課程系統図で定めた<専門>に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め 38 単位以上を修得する。
	<展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめることができる。	「材料工学実験」「ものづくり実習」「卒業研究」「創造工学」を修得する。
(C) コミュニケーション能力	<発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得する。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。	教育課程系統図で定めた<英語>に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め 19 単位以上を修得する。

(出典 平成 24 年度学生便覧 p. 106-110)

資料 6 - 1 - ① - 2

専攻科及び「複合型生産システム工学」教育プログラムの学習・教育目標達成度評価基準

専攻科及び複合型生産システム工学プログラムの学習・教育目標の達成度評価基準

平成24年2月6日
教務主事 裁定

1. 専攻科の修了認定に関する規則第2条第2号に基づく達成度評価基準は、下表の(A)(B)(C)の評価方法のうち、各専攻必修科目及び選択必修科目の修得とする。
2. 複合型生産システム工学プログラムの履修及び修了に関する規則第4条第5号に基づく学習・教育目標の達成度評価基準は、下表のとおりとする。

学習・教育目標	関連する基準 1 (1) (a) ~ (h) の項目	評価方法	備考
(A) 技術者としての姿勢	<視野> 自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。 人文・社会科学及び外国語の学習を通して、世界の歴史や文化、社会のしくみの違いを認識し、幅広い視野から物事を考えることができる。また、社会における自分自身、世界における日本の位置付けを理解し、他者他国の立場から物事を考えることができる。	(a) 授業要覧で定めた外国語を含む人文・社会系25科目から3科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<技術者倫理> 生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。 技術者としての倫理観を身に付け、人類の生産活動によって生じた環境の破壊や技術者のモラルの欠如によって生じた重大事故等の事例を通して、技術者の社会的責任を理解できる。	(b) 「技術者倫理」の単位を修得する。 「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<意欲> 習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。 急速に進化する技術社会に対応できるよう、生涯にわたり自発的に学習する姿勢を身に付けて、知識・経験を継続的に積み上げることができる。	(e) 「特別研究」に加え、「卒業研究」「創造工学」のうち 1 科目以上を修得する。 (g) 「創造工学」「卒業研究」で継続的・自律的な学習を行う基本的な姿勢を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	
(B) 基礎・専門の知識とその応用力	<基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。 数学、自然科学および情報技術の知識として ・ 数学: 微分積分、代数学、微分方程式等に関する知識 ・ 自然科学: 一般物理、一般化学に関する知識 ・ 情報技術: 情報基礎に関する知識 の内容を習得し、それを活用することができる。	(c) 授業要覧で定めた数学系科目から3科目以上、自然科学系科目から2科目以上、情報技術系科目から1科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	
	<専門> 基礎工学および主となる専門分野に加えて、生産システムに関する専門工学(生産・素材・計測に関する工学ならびに知識に関する工学)の知識を習得し、それを活用できる。 「基礎工学」として ・ 設計・システム系科目 ・ 情報・論理系科目 ・ 材料・バイオ系科目 ・ 力学系科目 ・ 社会技術系科目 の内容を習得し、それを活用することができる。	(d) 主となる専門分野は、学科の卒業に必要な科目を修得する。 授業要覧で定めた基礎工学の「設計・システム系」、「情報・論理系」「材料・バイオ系」、「力学系」、「社会技術系」から各系1科目、計 6 科目以上を修得する。 授業要覧で定めた専門工学の「生産に関する工学」、「素材に関する工学」、「計測に関する工学」、「知識に関する工学」から各工学2科目、計8科目以上を修得する。 各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	以下の外部評価も行う。 ・ 学士を取得する。
	「主となる専門分野の知識(実験技術を含む)」として ・ 機械: 機械工学に関する知識 ・ 電気・電子・情報: 電気工学・電子工学・情報工学に関する知識 ・ 化学・生物: 応用化学・生物化学・生物工学に関する知識 ・ 材料: 材料工学に関する知識 のいずれかの内容を習得し、それを活用することができる。		
(C) コミュニケーション能力	「生産システムに関する専門工学の知識」として ・ 生産に関する工学: 生産・製造方法等に関連する知識 ・ 素材に関する工学: 材料の種類、特性・性質等に関連する知識 ・ 計測に関する工学: 計測技術に関連する知識 ・ 知識に関する工学: 効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識の内容を習得し、それを活用することができる。	(c) 「特別研究」に加え、「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目のうち 2 科目以上を修得する。 (d) 「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目で限られた時間内で仕事を計画的に進めまとめる能力を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	
	<発表> 自らの取り組み課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。 卒業研究論文、特別研究論文を論理的に記述することができる。与えられた時間内で、電子機器等を効果的に利用して卒業研究および特別研究の成果を口頭で発表でき、討論ができる。	(f) 「特別研究」に加え、「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」から1科目以上を修得する。 「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」で論理的な記述・伝達・討論の基礎能力を身につけさせた上で、「特別研究」において、中間発表、最終発表、特別研究論文を所定の成績評価表に従って評価する。	以下の外部評価も行う。 ・ 外部での研究発表。 ・ TOEIC 425 点相当。
	<英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。 専門領域に関する英語で書かれた文献の内容を理解することができる。また、卒業研究論文、特別研究論文の要旨を英語で記述することができる。また、特別研究の口頭での概要説明を経験している。	(f) 「技術英語Ⅰ、Ⅱ」「英語総合Ⅰ、Ⅱ」「特別研究」を修得する。 「特別研究」における「英語」の評価は、特別研究論文、最終発表を所定の成績評価表に従って評価する。 その他の科目は、各科目の「この授業の達成目標」についてシラバス記載の評価方法で評価する。	

(出典 平成24年度学生便覧p. 188)

資料 6-1-①-3

卒業要件確認表

平成23年度機械工学科 学習・教育目標達成度状況

学籍番号	氏名	(A)			(B)			(C)		
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
		☐	☐							

[illegible]

平成23年度電気電子工学科 学習・教育目標達成度状況

学籍番号	氏名	(A)			(B)			(C)	
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		x	○	○	○	○	○	○	x
		○	○	○	○	○	○	○	x
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		x	○	○	○	○	○	○	x
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		x	○	○	○	○	○	○	x
		○	○	○	○	○	○	○	○

[illegible]

[illegible][illegible][illegible]

学籍番号	氏 名	(A)			(B)			(C)	
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒

資料 6-1-①-3 続き

学籍番号	氏 名	(A)			(B)			(C)	
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐		
☐ </									

卒業認定要件		判定
単位修得状況 (167単元以上者)	学習・教育目標 の達成	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	
合格	合格	

(出典 学生課資料)

資料 6－1－①－4

修了要件確認表

平成23年度電子機械工学専攻 学習・教育目標達成度状況									
学籍番号	氏 名	(A)			(B)			(C)	
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○

修了認定要件		判定
単位修得状況 (52単位以上修)	学習・教育目標 の達成	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	

平成23年度応用物質工学専攻 学習・教育目標達成度状況									
学籍番号	氏 名	(A)			(B)			(C)	
		視野	技術者倫理	意欲	基礎	専門	展開	発表	英語
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○	○	○

修了認定要件		判定
単位修得状況 (52単位以上修)	学習・教育目標 の達成	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	
合	合	

(出典 学生課資料)

卒業認定に関する規則

卒業認定に関する規則

(趣旨)

第 1 条 卒業の認定は、この規則の定めるところによる。

(卒業認定の基準)

第 2 条 第 5 学年を修了した者について、次の各号に該当する場合は卒業を認定する。

- (1) 各学年において、所定の単位を修得していること。
- (2) 全学年において修得した単位は 167 単位以上(そのうち、一般科目については 75 単位以上、専門科目については 82 単位以上とする。)であること。
- (3) 別に定める各学科の学習・教育目標の達成度評価基準を満たしていること。

(卒業認定)

第 3 条 前条の認定は、専任の授業担当教員で組織する卒業判定会議の意見を聞いて校長がこれを行う。

(卒業証書の授与)

第 4 条 前 2 条により卒業を認定した者には卒業証書を授与する。

附 則

この規則は、平成 24 年 2 月 6 日から施行する。

(出典 平成24年度学生便覧p. 138)

修了認定に関する規則

専攻科の修了認定に関する規則

(趣旨)

第 1 条 専攻科の修了認定に関する事項は、この規則の定めるところによる。

(修了認定)

第 2 条 専攻科の修了認定は、専攻科に 2 年以上在学し、次表に定める単位数を取得している者に対して行う。

区 分		修得単位数	備 考
教養科目	必修	8 単位	
	選択	2 単位	
専門共通科目	必修	14 単位	
	選択	2 単位	
専門展開科目	必修	電子機械工学専攻 20 単位	
		応用物質工学専攻 18 単位	
	選択	電子機械工学専攻 6 単位	
教養科目 専門共通科目 専門展開科目	選択	電子機械工学専攻 10 単位以上 応用物質工学専攻 18 単位以上	専攻科授業科目の履修及び単位修得に関する規則 (平成 16 年規則第 20 号)第 11 条及び規則第 12 条に 規定する授業科目について、8 単位を限度として専 門共通科目として認定することができる。
合 計		62 単位以上	

2 別に定める学習・教育目標の達成度評価基準を満たしていること。

第 3 条 前条の修了認定は、専攻科の授業科目担当教員で組織する修了認定会議の意見を聞いて、校長がこれを行う。

第 4 条 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

附 則

この規則は、平成 24 年 2 月 6 日から施行する。

(出典 平成24年度学生便覧p. 172)

資料 6－1－①－7

準学士課程の「学習・教育目標」の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

平成 23 年度卒業判定会議 議事要旨

日 時 平成 24 年 3 月 5 日（月） 10 時～10 時 40 分

場 所 第 1 会議室

出席者 校長，授業担当教員

（列席者：坂口学生課長，上野教務係長，森川係員，小島係員）

議 事

1. 卒業認定について

校長から，会議を始めるにあたり卒業認定について規則の確認があった。

続いて，各学科長から，資料に基づき次のとおり説明があり，審議の結果，了承された。

機械工学科長から，在籍者 43 名のうち，追認試験の対象となる 4 名を除く 39 名は卒業要件を満たしているので卒業を認めていただきたいこと，追認試験受験者 4 名については，試験の結果合格すれば卒業を認めていただきたい旨説明があった。

電気電子工学科長から，在籍者 46 名のうち，追認試験の対象となる 3 名を除く 43 名は卒業要件を満たしているので卒業を認めていただきたいこと，追認試験受験者 3 名については，試験の結果合格すれば卒業を認めていただきたい旨説明があった。

電子情報工学科長から，在籍者 38 名（休学者 1 名を除く）のうち，追認試験の対象となる 7 名を除く 31 名は卒業要件を満たしているので卒業を認めていただきたいこと，追認試験受験者 7 名については，試験の結果合格すれば卒業を認めていただきたい旨説明があった。また，休学者は進路変更により退学する旨，併せて説明があった。

生物応用化学科長から，在籍者 37 名（休学者 1 名を除く）のうち，追認試験の対象となる 12 名を除く 25 名は卒業要件を満たしているので卒業を認めていただきたいこと，追認試験受験者 12 名については，試験の結果合格すれば卒業を認めていただきたい旨説明があった。また，休学者は 4 月より復学する旨，併せて説明があった。

材料工学科長から，在籍者 44 名のうち，追認試験の対象となる 5 名を除く 39 名は卒業要件を満たしているので卒業を認めていただきたいこと，追認試験受験者 5 名については，試験の結果合格すれば卒業を認めていただきたい旨説明があった。

なお，追認試験は，追認対象者が希望すれば最大 4 単位まで受験可能である旨，確認がなされた。

（出典 学生課資料）

資料 6－1－①－8

専攻科課程の「学習・教育目標」の達成状況の検証内容が確認できる議事録の抜粋

平成 23 年度専攻科修了認定会議 議事要旨

日 時 平成 24 年 3 月 5 日（月） 10 時 45 分～ 11 時

場 所 第 1 会議室

出席者 校長及び専攻科の授業担当教員

（列席者：坂口学生課長，上野教務係長，森川係員，小島係員）

議 事

1 平成 23 年度専攻科修了認定について

校長から，修了認定に関する規則の説明があり，その後電子機械工学専攻主任及び応用物質工学専攻主任から，資料に基づき説明があった。審議の結果，電子機械工学専攻 22 名のうち休学中の学生 1 名を除く 21 名及び応用物質工学専攻 6 名，計 27 名の修了が了承された。

続いて専攻科長から，先に行われた専攻科分科会において複合型生産システム工学プログラムの履修状況を確認し，電子機械工学専攻 21 名（休学者 1 名を除く）及び応用物質工学専攻 6 名の全員について同プログラムの修了を承認した旨，報告があった。

（出典 学生課）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，目的に沿って定めた，「学習・教育目標」の項目毎にその達成要件（準学士課程の卒業要件及び専攻科課程の修了要件）を定めて，卒業（修了）認定会議においてそれぞれ卒業（修了）認定を実施しており，目的に沿った形で，課程に応じて，養成すべき人材像，学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組を行っている。

観点 6－1－②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，卒業（修了）要件確認表を基に，卒業（修了）認定を行うことで，本校の定める卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を備えた学生を育成している。卒業判定会議及び修了認定会議における達成要件の検証結果では，達成度評価基準の各項目の達成状況は，準学士課程平均 100%，専攻科課程平均 99～100%である（資料 6－1－②－1，2）。学生はおおむね順調に本校のカリキュラムを履修・修得し，進級率・卒業率・修了率のいずれにおいても高い比率を保っている（資料 6－1－②－3）。また「実践力の育成」及び「高い専門知識の修得」が期待できる技能審査単位認定の対象となる資格取得においても，毎年安定した状況にある（資料 6－1－②－4）。

専攻科の修了に当たっては，これまでの修了生全員が学習成果レポートに基づく大学評価・学位授

与機構の小論文審査に合格して学位を取得している（資料 6－1－②－5）。また特別研究については、毎年度末に催される産学官交流フォーラムの場において専攻科修了生全員が成果発表を行っており（資料 6－1－②－6），それ以外にも学生による学会・研究会等における発表の報告が多数ある（資料 6－1－②－7）。これらの成果を、毎年、特別研究論文集として発行している。

資料 6－1－②－1

準学士課程5年生における評価達成状況

機械工学科

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率
(A)	視野	教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め46単位以上の修得	100%
	技術者倫理	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
	意欲	「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(B)	基礎	教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め44単位以上の修得	100%
	専門	教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め66単位以上の修得	100%
	展開	「総合実習」「工学実験」「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(C)	発表	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「総合実習」「創造工学」「卒業研究」の単位を修得	100%
	英語	教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上の修得	100%
平均値			100%

資料 6 - 1 - ② - 1 続き

電気電子工学科

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率
(A)	視野	教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め45単位以上の修得	100%
	技術者倫理	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
	意欲	「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(B)	基礎	教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め43単位以上の修得	100%
	専門	教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め39単位以上の修得	100%
	展開	「電気電子工学実験」「卒業研究」「創造工学」の修得	100%
(C)	発表	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位の修得	100%
	英語	教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上の修得	100%
平均値			100%

電子情報工学科

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率
(A)	視野	教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め45単位以上の修得	100%
	技術者倫理	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
	意欲	「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(B)	基礎	教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め38単位以上の修得	100%
	専門	教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め36単位以上の修得	100%
	展開	「電子情報工学実験」「卒業研究」「創造工学」の修得	100%
(C)	発表	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位の修得	100%
	英語	教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上の修得	100%
平均値			100%

資料 6 - 1 - ② - 1 続き

生物応用化学科

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率
(A)	視野	教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め45単位以上の修得	100%
	技術者倫理	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
	意欲	「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(B)	基礎	教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め68単位以上の修得	100%
	専門	教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め40単位以上の修得	100%
	展開	「卒業研究」「創造工学」の修得	100%
(C)	発表	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位の修得	100%
	英語	教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上の修得	100%
平均値			100%

材料工学科

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率
(A)	視野	教育課程系統図で定めた＜視野＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め45単位以上の修得	100%
	技術者倫理	「倫理・社会」に加え、「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
	意欲	「卒業研究」「創造工学」の単位の修得	100%
(B)	基礎	教育課程系統図で定めた＜基礎＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め47単位以上の修得	100%
	専門	教育課程系統図で定めた＜専門＞に関連する自然科学および専門科目から、必修及び選択必修科目を含め38単位以上の修得	100%
	展開	「材料工学実験」「ものづくり実習」「卒業研究」「創造工学」の修得	100%
(C)	発表	「国語ⅠA」「国語ⅠB」「国語Ⅱ」「日本文学」「創造工学」「卒業研究」の単位の修得	100%
	英語	教育課程系統図で定めた＜英語＞に関連する外国語を含む人文・社会系科目から、必修及び選択必修科目を含め19単位以上の修得	100%
平均値			100%

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 2

専攻科2年次における評価達成状況

専攻科 電子機械工学専攻

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率	平成22年度 評価達成率	
(A)	視野	授業要覧で定めた外国語を含む人文・社会系25科目から3科目以上の修得	100%	100%	
	技術者倫理	「技術者倫理」の修得	100%	100%	
	意欲	「特別研究」の修得	100%	95%	
「卒業研究」「創造工学」のうち1科目以上の修得		100%	100%		
(B)	基礎	授業要覧で定めた数学系科目から3科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた自然科学系科目から2科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた情報技術系科目から1科目以上の修得	100%	100%	
	専門	学科の卒業に必要な、主となる専門分野科目の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「設計・システム系」から1科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「情報・論理系」から1科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「材料・バイオ系」から1科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「力学系」から1科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「社会技術系」から1科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の各系から計6科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「生産に関する工学」から2科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「素材に関する工学」から2科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「計測に関する工学」から2科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「知識に関する工学」から2科目以上の修得	100%	100%	
	展開	「特別研究」の修得	100%	95%	
		「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目のうち2科目以上の修得	100%	100%	
	学士の取得				100%
(C)	発表	「特別研究」の修得	100%	95%	
		「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」から1科目以上の修得	100%	100%	
	英語	「技術英語Ⅰ,Ⅱ」「英語総合Ⅰ,Ⅱ」「特別研究」の修得	100%	100%	
	外部での研究発表				95%
	TOEIC 425点相当				100%
平均値			100%	99%	

資料 6－1－②－2 続き

専攻科 応用物質工学専攻

学習・教育目標		評価基準	平成23年度 評価達成率	平成22年度 評価達成率	
(A)	視野	授業要覧で定めた外国語を含む人文・社会系 25 科目から 3 科目以上の修得	100%	100%	
	技術者倫理	「技術者倫理」の修得	100%	100%	
	意欲	「特別研究」の修得	100%	100%	
「卒業研究」「創造工学」のうち 1 科目以上の修得		100%	100%		
(B)	基礎	授業要覧で定めた数学系科目から 3 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた自然科学系科目から 2 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた情報技術系科目から 1 科目以上の修得	100%	100%	
	専門	学科の卒業に必要な、主となる専門分野科目の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「設計・システム系」から 1 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「情報・論理系」から 1 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「材料・バイオ系」から 1 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「力学系」から 1 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の「社会技術系」から 1 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた基礎工学の各系から計 6 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「生産に関する工学」から 2 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「素材に関する工学」から 2 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「計測に関する工学」から 2 科目以上の修得	100%	100%	
		授業要覧で定めた専門工学の「知識に関する工学」から 2 科目以上の修得	100%	100%	
		展開	「特別研究」の修得	100%	100%
			「卒業研究」「創造工学」および実験・実習科目のうち 2 科目以上の修得	100%	100%
	学士の取得				100%
	(C)	発表	「特別研究」の修得	100%	100%
			「言語表現学Ⅰ」「言語表現学Ⅱ」「言語表現学特論」「卒業研究」から 1 科目以上の修得	100%	100%
英語		「技術英語Ⅰ，Ⅱ」「英語総合Ⅰ，Ⅱ」「特別研究」の修得	100%	100%	
外部での研究発表				100%	
TOEIC 425点相当				100%	
平均値			100%	100%	

(出典 学生課資料)

資料 6－1－②－3

進級率，留年率，退学率及び卒業率，修了率の過去 5 年間分のデータ

(1) 学科

	進級率(1～4 年)	留年率(全学年)	退学率(全学年)	卒業率
19年度	839/877 = 95.67%	18/1097 = 1.64%	21/1097 = 1.91%	219/220 = 99.55%
20年度	819/867 = 94.46%	32/1078 = 2.97%	16/1078 = 1.48%	211/211 = 100.00%
21年度	852/892 = 95.52%	21/1072 = 1.96%	21/1072 = 1.96%	179/180 = 99.44%
22年度	823/876 = 93.95%	45/1084 = 4.15%	16/1084 = 1.48%	202/208 = 97.12%
23年度	826/871=94.83%	28/1081=2.59%	19/1081=1.76%	208/210 = 99.05%

(2) 専攻科

	退学率(全年次)	修了率
19年度	0/51 = 0.00%	20/23 = 86.96%
20年度	1/57 = 1.75%	24/28 = 85.71%
21年度	1/56 = 1.79%	26/30 = 86.67%
22年度	0/58 = 0.00%	27/29 = 93.10%
23年度	0/68=0.00%	27/28 = 96.43%

(出典 学生課資料)

資料 6－1－②－4

資格取得件数一覧

文部科学大臣が別に定める学修	認定される科目名及び単位数			19	20	21	22	23
	科目名	級	単位数	年度	年度	年度	年度	年度
実用英語技能検定の合格に係る学修	実用英語技能検定	1 級	6					
		準 1 級	4					
		2 級	2			1		
		準 2 級	1	1		1	1	
実用フランス語技能検定の合格に係る学修	実用フランス語技能検定	1 級	6					
		2 級	4					
		3 級	2					
		4 級	1					
スペイン語技能検定の合格に係る学修	スペイン語技能検定	1 級	6					
		2 級	4					
		3 級	2					
		4 級	1					
日本漢字能力検定の合格に係る学修	日本漢字能力検定	1 級	3					
		準 1 級	2				1	
		2 級	1	26	32	30	20	16
工業英語能力検定の合格に係る学修	工業英語能力検定	1 級	6					
		2 級	3					
		3 級	1	9	11	11	6	4
ラジオ・音響技能検定の合格に係る学修	ラジオ・音響技能検定	1 級	2					
		2 級	1					
デジタル技術検定の合格に係る学修	デジタル技術検定	1 級	2					
		2 級	1	3				
画像情報技能検定 C G 部門の合格に係る学修	画像情報技能検定 C G 部門	1 級	4					
		2 級	2	1	2			
公害防止主任者	大気		1					
	水質		1					
	粉塵		1					
	騒音		1					
	振動		1					

資料 6 - 1 - ② - 4 続き

技能審査の名称	等級	単位数	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
実用数学技能検定	1 級	2					
	準 1 級	1					
TOEIC (平成 19 年度 ～)	860～	6		2	4	2	2
	790～859	5		1	1	1	2
	730～789	4	1	2	1	1	1
	600～729	3		4	2	5	8
	470～599	2	9	10	8	7	12
	425～469	1	8	7	11	5	16
日本語能力試験	N 1	2				2	2
	N 2	1				1	
情報処理技術者		1～4	(1 単位) 3 (2 単位) 7	(1 単位) 4 (2 単位) 2	(2 単位) 3	(2 単位) 5	(3 単位) 1 (2 単位) 5
C G エンジニア検定	C G 部門 エキスパート 2 級	1				2	
	画像処理部門エキ スパート 2 級	1					
危険物取扱者	甲種	2	3	1	8	1	1
	乙種 (6 つ の類)	2	1	2	2	3	1
	乙種 (3 つ の類)	1	4	4	6	2	1
電気主任技術者	2 種	4				1	3
	3 種	2	4		2	2	
陸上無線技術者	1 級	4					
	2 級	2					
電気通信主任技術者		4					
電気工事士	1 種	2					
	2 種	1	4	3			
3 次元 C A D 利用技術者検定	1 級	3			1		
	準 1 級	2					
	2 級	1					1
技術士補	化学部門	6				1	
高圧ガス製造保安責任者	丙	1					
放射線取扱主任者	1 種	4					
	2 種	2					
毒物劇物取扱者	一般	1					1

(出典 学生課資料)

資料 6－1－②－5

専攻科修了生の学位取得率の過去 5 年分のデータ

年度	電子機械工学専攻		応用物質工学専攻	
平成 19 年度	13/14	92.86%	7/7	100.00%
平成 20 年度	19/21	90.48%	5/6	83.33%
平成 21 年度	13/15	86.67%	13/13	100.00%
平成 22 年度	20/20	100.00%	7/7	100.00%
平成 23 年度	21/21	100.00%	7/7	100.00%

※未取得となっている修了生についても，翌年度以降に全員取得済み

(出典 学生課資料)

産学官交流フォーラムの資料

SUZUKA産学官交流会 第29回産学官交流フォーラム**3教育研究機関合同 産学官交流フォーラム****若手ビジネスパーソンの次代ネットワークづくりをめざして**

当交流会では、産学官連携による共同研究開発テーマの模索、企業と教育研究機関の研究者との出会いの場づくり等を目的として、3つの教育研究機関の特色あるテーマで下記の通りフォーラムを開催します。また今回のフォーラムでは、企業の若手経営者や若手後継者、若手社員、教育研究機関の若手研究者等への産学官連携の啓蒙と次代ネットワークづくりを推進すべく、45歳以下の若手ビジネスパーソンのご同行を歓迎いたします。是非お問い合わせの上ご参加ください。

□プログラム

I. 講演『環境志向・価値創造型エンジニアの育成』
 —教育GPによる環境教育の取り組み—

鈴鹿工業高等専門学校 材料工学科 教授 江崎尚和 氏
 生物応用化学科 教授 澤田善秋 氏
 教育研究支援室 室長 森 邦彦 氏

II. 鈴鹿高専 専攻科学生ポスターセッション (会場：B棟1階ラウンジ)

III. 講演『食を通して三重発の新事業開発への提案』

鈴鹿医療科学大学 医療栄養学科長 教授 長村洋一 氏

IV. 講演『グローバル化時代の人材活用』

鈴鹿国際大学 学長補佐・国際人間科学部 教授 アーナンダ・クマール 氏
 事務局長・キャリア支援センター 部長 米島久雄 氏
 国際人間科学部 留学生

V. 交流パーティ 17:20～18:40 (会場：C棟1階ラウンジ)

□日時：**平成23年2月25日(金) 14:00～17:00**

□会場：鈴鹿国際大学 国際文化ホール (裏面の地図参照)

□定員：120名

□参加費：交流パーティ参加の方は、当日受付にて1,000円をお支払いください。

※45歳以下の方は、無料にて交流パーティに参加いただけます。

□バス送迎：【行き】鈴鹿高専 13:00 発 ⇒ 医科大 13:15 発 ⇒ 鈴国大 13:45 着

【帰り】鈴国大 18:50 発 ⇒ 白子駅 ⇒ 医科大 ⇒ 鈴鹿高専

□申込み：**裏面の申込書を2月14日(月)までに貴校事務局へご提出ください。**

□問合せ：鈴鹿商工会議所 担当/内田・丸山・加藤まで TEL 382-3222

主 催/鈴鹿商工会議所 SUZUKA産学官交流会
後 援/三重県、鈴鹿市、(財)三重県産業支援センター



(出典 総務課資料)

資料 6－1－②－7

平成 19～23 年度における専攻科学生の学外発表件数

年度	H19	H20	H21	H22	H23
電子機械工学専攻	14 (34)	20 (36)	33 (33)	34 (43)	29 (45)
応用物質工学専攻	7 (17)	6 (21)	28 (22)	19 (15)	18 (24)

括弧内の数値は各専攻の学生数

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を意味する「学習・教育目標」の項目ごとの達成要件を明確に定めており、その達成率が高率を維持している。卒業研究（特別研究）は学科卒業生（専攻科修了生）が本校で身に付けた知識や能力を最大限に発揮した成果である。特別研究は学会・研究会の場における発表に耐えうる水準に達しており、修了生が身に付けてきた学力や資質・能力は十分な水準にあるといえる。また、大学評価・学位授与機構の小論文審査における高い合格率は、修了生の学力や資質・能力については第三者から見ても一定の水準以上にあることを示している。本校の教育課程はそういった学力や資質・能力を身に付けることができるように整備されており、高い進級率・卒業率・修了率から、その教育課程を学生が順調に履修・修得できていることが確認できる。資格取得の安定傾向から、意欲的に学習に取り組む学生の姿勢を窺うことができる。

以上のことから、各学年や卒業（修了）時において学生が身に付ける学力や知識・能力について、教育の成果や効果が十分に上がっていると判断できる。

観点 6－1－③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

教育の「目的」に示されている本校が養成すべき人材像は、各学科（専攻科）の学習・教育目標の中に盛り込まれ、卒業（修了）はそのまま教育の「目的」に謳われた本校が養成すべき人材としての能力を身に付けたことを意味し、それが妥当であるかどうかは、卒業（修了）生の就職・進学という客観的な実績により裏付けられている。本校の卒業生（修了生）は、就職希望・進学希望ともに毎年度100%の就職・進学を果たしている（資料 6－1－③－1）。就職先としては工業系企業が中心で、進学先としては本校専攻科以外にも、国公立大学を中心とした数多くの大学（大学院）の工学部が主である（資料 6－1－③－2，3）。

資料 6 - 1 - ③ - 1

準学士課程及び専攻科課程における就職率、進学率、全卒業（修了）生に対する
就職者・進学者・その他・進路未決定者の割合の過去5年間分のデータ

年 度		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
準 学 士 課 程	卒業生数		219	211	179	203	208	
	就 職	就職希望者数	114	103	88	100	119	
		就職希望率	52%	49%	49%	49%	57%	
		就職者数	114	103	88	100	119	
		就職率	100%	100%	100%	100%	100%	
		進 学	進学希望者数	100	105	89	101	89
			進学希望率	46%	50%	50%	50%	43%
	進学者数		100	105	89	101	89	
	進学率		100%	100%	100%	100%	100%	
	その他		5	3	2	2	0	
	全卒業生に対するその他の割合		2%	1%	1%	1%	0%	
	進路未決定者		0	0	0	0	0	
	全卒業生に対する進路未決定者の割合		0%	0%	0%	0%	0%	
専 攻 科 課 程	修了者数		20	23	24	28	28	
	就 職	就職希望者数	12	18	10	13	21	
		就職希望率	60%	78%	42%	46%	75%	
		就職者数	12	18	10	13	21	
		就職率	100%	100%	100%	100%	100%	
		進 学	進学希望者数	8	5	14	15	7
			進学希望率	40%	22%	58%	54%	25%
	進学者数		8	5	14	15	7	
	進学率		100%	100%	100%	100%	100%	
	その他		0	0	0	0	0	
	全修了生に対するその他の割合		0%	0%	0%	0%	0%	
	進路未決定者		0	0	0	0	0	
	全修了生に対する進路未決定者の割合		0%	0%	0%	0%	0%	

（出典 学生課資料）

資料 6 - 1 - ③ - 2

平成23年度 卒業生の就職先

工業系	化学・食品系	通信系	運輸系	その他
-----	--------	-----	-----	-----

アイシン精機(株)	日本ニューマチック工業(株)	AGF鈴鹿(株)	(株)NTTファシリティーズ	東海旅客鉄道(株)	日本たばこ産業(株)
旭化成(株)	パナソニック(株)AVCネットワークス社	関東化学(株)	(株)NTTデータ		
旭電器工業(株)	パナソニック電工(株)四日市事業所	第一工業製薬(株)	(株)NTTネオメイト		
株式会社アドヴィックス	(株)光機械製作所	三菱ガス化学(株)	ドコモエンジニアリング東海(株)		
(株)エレテクノス	(株)日立製作所	三菱化学エンジニアリング(株)			
NTN(株)	富士ダイス	ロート製薬(株)			
大岡技研(株)	富士通(株)				
王子板紙(株)	富士電機(株)				
KYB(株)	富士紡ホールディングス(株)				
川重岐阜エンジニアリング(株)	ブラザー工業(株)				
京セラ(株)	本田技研工業(株)				
京セラミタ(株)	(株)マツダE&T				
キャノン(株)	三重金属工業				
クノール食品(株)	ミズノテクニクス(株)				
サンテクノ株式会社	三菱重工業(株)相模原製作所				
JSR(株)	(株)ミヤケ				
昭和四日市石油(株)	美和ロック(株)				
新日本製鐵(株)	Meiji Seika ファルマ(株)				
ダイキン工業(株)	名南製作所(株)				
大日本住友製薬(株)	矢崎総業(株)				
(株)大同キャスティングス	(株)UL Japan				
(株)高田工業所	ユニバーサル造船(株)				
中京油脂(株)	(株)吉野工業所				
中部電力(株)	(株)トピア				
中菱エンジニアリング(株)	東洋インキ(株)				
デンソーテクノ(株)	東洋インキ製造(株)				
(株)東芝 電力システム社	日清紡メカトロニクス(株)				
(株)東芝 四日市工場	日東電工(株) 豊橋事業所				
東ソー(株)	日本アエロジル(株)				
(株)東ソー分析センター	日本精工(株)				
東レ(株)	日本車輛製造(株)				
東邦ガス	東海住電精密(株)				

平成23年度 修了生の就職先

工業系	通信系
-----	-----

アイシン精機(株)	ネットエージェント(株)	(株)NTTファシリティーズ
朝日インテック(株)	日立オムロンターミナルソリューション	
旭化成(株)	富士重工業(株)	
シャープ(株)	豊和工業(株)	
シンフォニアテクノロジー(株)	(株)前川製作所	
ソニーEMCS(株) 東海テック幸田サイト	三重金属工業(株)	
株式会社大同分析リサーチ	(株)ミヤケ	
日東電工(株)		

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成22年度 卒業生の就職先

工業系	化学・食品系	通信系	運輸系	その他
アイシン精機(株)	日清紡メカトロニクス(株)	AGF鈴鹿(株)	NTTコミュニケーションズ(株)	東海旅客鉄道(株)
旭化成(株)	日東電工(株) 亀山事業所	カゴメ(株)上野工場	NTTコムウェア東海(株)	西日本旅客鉄道(株)
朝日ダイヤモンド工業(株)	日本電産(株)	カゴメ(株)小坂井工場	(株)NTTネオメイト	
イオンクレジットサービス(株)	橋本電子工業(株)	サントリープロダクツ(株)	中部テレコミュニケーション(株)	
出光興産(株)	パナソニック(株)AVCネットワークス社	サントリーホールディングス(株)		
(株)INAX	パナソニックエレクトロニクスデバイス(株)	シオノギ分析センター(株)		
NECネットエスアイ(株)	パナソニック電工(株)津工場	(株)資生堂		
NTN(株)	パナソニック電工(株)四日市事業所	大日本住友製薬		
NDSインフォス(株)	(株)富士通ゼネラル	三菱ガス化学(株)		
王子板紙(株)	富士重工(株)	明治乳業(株)		
大阪ガス(株)	富士通(株)	森永乳業(株)中京工場		
オークマ(株)	富士電機システムズ(株)	横山食品(株)		
関西電力(株)	本田技研工業(株)	ロート製薬(株)		
京セラ(株)	松田工業(株)	和光純薬工業(株)		
(株)キヨリックス三重	マルホ(株)			
コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所			
三洋化成工業(株)	三菱重工業(株)名古屋研究所			
昭和四日市石油(株)	三菱重工業(株)名古屋誘導推進			
シンフォニアテクノロジー(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)			
センカ(株)	名南製作所(株)			
(株)中勢ゴム	矢崎総業(株)			
中部空港施設サービス(株)	(株)UL Japan			
中部資材(株)	ユニバーサル造船(株)			
中部電力(株)	東邦ガス			
東海交通機械(株)	東洋インキ製造(株)			
(株)東芝 四日市工場	(株)トピア			
東ソー(株)	(株)トヨタコミュニケーションシステム			
中西金属(株)				

平成22年度 修了生の就職先

工業系	教育機関
旭化成(株)	百五コンピュータソフト(株)
旭電器工業(株)	(株)前川製作所
内田鍛工(株)	(株)山武
MHIエアロスペースシステムズ(株)	ユニチカ(株)
共和産業(株)	JSR(株)
シャープ(株)	

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成21年度 卒業生の就職先

工業系	化学・食品系	通信系	運輸系	その他
-----	--------	-----	-----	-----

AvanStrate(株)	日清紡メカトロニクス(株)	AGF鈴鹿(株)	NTTコムウェア東海(株)	東海旅客鉄道(株)	(独)国立印刷局
(株)アイ・エイチ・アイマリンユニテッド	ニプロファーマ(株)	カゴメ(株)	(株)NTTドコモ		日本たばこ産業(株)
アイシン・エンジニアリング(株)	パナソニックエレクトロニクスエバイス(株)	協和発酵ケミカル(株)	(株)ケーブルネット鈴鹿		
アイシン精機(株)	パナソニック電工(株)津工場	サントリーホールディングス(株)	中部テレコミュニケーション(株)		
旭化成(株)	(株)半導体エネルギー研究所	サントリープロダクツ(株)	西日本電信電話(株)		
旭電器工業(株)	(株)光機械製作所	シオノギ分析センター(株)			
出光興産(株)	ビューテック(株)	大日本住友製薬(株)			
エイベックス(株)	ブラザー工業(株)	大洋薬品工業(株)			
(株)エス・イー・シー・ハイテック	三菱重工業(株)名古屋研究所	武田薬品工業(株)			
NEC SCHOTTコンポーネンツ(株)	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所	三菱ガス化学(株)			
NTN(株)	(株)名南製作所	森永乳業(株)			
NDSインフォス(株)	(株)森精機製作所	ロート製薬(株)			
MKパピック	ヤマザキマザック(株)				
大阪ガス(株)	ユニチカ(株)				
カーブスジャパン(株)	中部電力(株)				
(株)カネカ	(株)中部ブランドサービス				
関西電力(株)	津マリンデザイン(株)				
京セラ(株)八日市工場	東京電力(株)				
黒金化成(株)	東ソー(株)				
(株)JSP	東邦ガス(株)				
新日本製鐵(株)	東レ(株)				
新日本石油(株)	トヨタテクニカルディベロップメント(株)				
鈴鹿富士ゼロックス(株)	(株)中川製作所				

平成21年度 修了生の就職先

工業系	化学・食品系	その他
-----	--------	-----

アヴァンストレート(株)	中外製薬工業(株)	日本たばこ産業(株)
(株)カネカ		
コスモ石油(株)		
サントリープロダクツ(株)		
トヨタテクニカルディベロップメント(株)		
三菱電機ビルテクノサービス(株)		
(株)森精機製作所		

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成20年度 卒業生の就職先

工業系		化学・食品系	通信系	運輸系	その他
アイシン精機(株)	東洋インキ製造(株)	AGF鈴鹿(株)	NTTコムウェア東海(株)	東海旅客鉄道(株)	日本たばこ産業(株)
旭化成(株)グループ	東洋電機製造(株)	花王(株)	西日本電信電話(株)		
(株)アーレスティ	豊田合成(株)	カゴメ(株)			
(株)イーテック	(株)トヨタコミュニケーションシステム	協和発酵ケミカル(株)			
(株)INAX	(株)豊田中央研究所	サントリー(株)			
FDK(株)	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	大日本住友製薬(株)			
NTN(株)	(株)中川製作所	(株)三菱化学アナリテック			
MHIエアロスペースシステムズ(株)	日本メディカルマテリアル(株)	太陽化学(株)			
王子製紙(株)春日井工場	ロニックデバイス(株)	武田薬品工業(株)			
関西電力(株)	パナソニックモータ松阪(株)	三菱化学(株)			
関西ペイント(株)	(株)フィリップエレクトロニクスジャパン	明治乳業(株)			
京セラ(株)伊勢工場	富士重工業(株)	ロート製薬(株)			
京セラ(株)国分工場	ブラザー工業(株)	和光純薬工業(株)			
クラシエホームプロダクツ(株)	ボッシュ(株)				
コスモ石油(株)	本田技研工業(株)				
三洋化成工業(株)	パナソニック(株)AVCネットワークス社				
JSR(株)	パナソニック電工(株)津工場 *2				
昭和四日市石油(株)	パナソニック電工四日市(株) *3				
新日本製鐵(株)	マルホ(株)				
(株)スターインフォテック	三重金属工業(株)				
住電エレクトロニクス(株)	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙システム製作所				
住友金属鉱山(株)電子事業本部	三菱重工業(株)汎用機・特車事業本部				
住友軽金属工業(株)	三菱電機ビルテクノサービス(株)				
セントラル硝子(株)松阪工場	(株)ミルボン				
ソニーイーエムシーエス(株)美濃加茂テック	美和ロック(株)				
(株)ソリトンシステム	(株)村田製作所野洲事業所				
中部国際空港施設サービス(株)	ヤマハ発動機(株)				
中部電力(株)	(株)UL Japan				
DIC(株)	東邦ガス(株)				
デンソーテクノ(株)	(株)トーマコーポレーション				

平成20年度 修了生の就職先		
工業系		化学・食品系
アイシン精機(株)	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	三菱化学(株)
(株)イーテック	日東電工(株)亀山事業所	
(株)カネカ	(株)フジキン	
共和産業(株)	本田技研工業(株)	
鈴鹿富士ゼロックス(株)	松下電工(株)	
住電エレクトロニクス(株)	(株)三鈴エリー	
ソニーEMCS(株)一宮テック	美和ロック(株)	
東芝産業機器製造(株)	(株)森精機製作所	
ヤマザキマザック(株)		

平成20年度 修了生の就職先

工業系	化学・食品系	
アイシン精機(株)	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	三菱化学(株)
(株)イーテック	日東電工(株)亀山事業所	
(株)カネカ	(株)フジキン	
共和産業(株)	本田技研工業(株)	
鈴鹿富士ゼロックス(株)	松下電工(株)	
住電エレクトロニクス(株)	(株)三鈴エリー	
ソニーEMCS(株)一宮テック	美和ロック(株)	
東芝産業機器製造(株)	(株)森精機製作所	
ヤマザキマザック(株)		

資料 6 - 1 - ③ - 2 続き

平成19年度 卒業生の就職先

工業系	化学・食品系	通信系	運輸系	その他
アイシン精機(株)	太陽精機(株)	味の素 (株)	NTTコムウェア東海(株)	東海旅客鉄道 (株)
(株)旭化成ケミカルズ	中京油脂(株)	花王 (株)	(株) NTTドコモ東海	西日本旅客鉄道 (株)
(株)イーテック	中部電力(株)	サントリー(株)	(株) NTTネオメイト	(独) 国立印刷局
石塚硝子 (株)	中部東芝エンジニアリング(株)	大日本住友製薬 (株)	中部テレコミュニケーション(株)	凸版印刷(株)
(株) INAX	中部国際空港施設サービス (株)	太陽化学 (株)	西日本電信電話 (株)	自営業
NEC/SCHOTTコンポーネント(株)	津マリンデザイン(株)	武田薬品工業 (株)		
NDSインフォス (株)	(株) デニース・ンヤハン	中外製薬工業 (株)		
大阪ガス (株)	(株) デンソークリエイト	三菱化学 (株)		
オムロン(株)	デンソーテクノ (株)	三菱化学ポリエステルフィルム (株)		
関西電力 (株)	(株) 東芝セミコンダクター社	ロート製薬 (株)		
関西ペイント (株)	東洋インキ製造(株)	和光純薬工業 (株)		
京セラ(株)技術センター	(株) 豊田合成			
京セラ(株)滋賀蒲生工場	トヨタ車体(株)			
京セラミタ(株)	(株)豊田中央研究所			
京セラ(株)大阪玉造事業所	トヨタテクニカルディベロップメント (株)			
京セラ伊勢工場	日東電工(株)			
キヨリックス三重(株)	(株) 日本デジタル研究所			
(株)ケイ・オプティコム	日本車輛製造(株)			
KYB (株)	ネクストウェア(株)			
(株)小松製作所	(株) 日立製作所			
(株)JAL機体整備成田	日立化成工業(株)			
JSR(株)	富士通 (株)			
シャープ (株)	(株) 富士通エフサス			
新日本石油(株)中央技術研究所	(株)富士通ビジネスシステム			
鈴鹿富士セロックス(株)	ブラザー工業(株)			
住電エレクトロニクス(株)	豊栄工業(株)			
セコム (株)	(有)ホームクリーン			
ソニーイーエムシーエス(株)幸田テック	松下電工 (株)			
ソニーイーエムシーエス(株)一宮テック	三重銀コンピューターサービス(株)			
ソニーイーエムシーエス(株)美濃加茂テック	三菱重工業(株)名古屋航空宇宙シス			
ダイキン工業 (株)	(株)村田製作所			
(株)ダイヤ分析センター	村田機械 (株)			
(株) UL Japan	(株) 森精機製作所			
ヨネダ歯研	(株) USEN			
(株) ラボテック				

平成19年度 修了生の就職先

工業系	化学・食品系	その他
SR(株)	三菱化学(株)四日市事業所	凸版印刷(株)
シャープ(株)		
住電エレクトロニクス(株)		
デンソーテクノ(株)		
(株)INAX		
日東電工(株)亀山事業所		
(株)フジキン		
トヨタテクニカルディベロップメント(株)		
(株)富士通		
モリテックスチール(株)		
矢崎総業(株)		

(出典 学生課資料)

資料 6 - 1 - ③ - 3

平成23年度 卒業生の進学先

工学・理学系	情報系	生物・環境系	繊維・工芸系	その他
--------	-----	--------	--------	-----

鈴鹿高専専攻科	筑波大学(情報)	筑波大学(生命環境)	信州大学(繊維)
弘前大学(理工)			京都工芸繊維大学(工芸)
東北大学(工)			
群馬大学(工)			
東京農工大学(工)			
東京工業大学(工)			
東京工業大学(生命理工)			
長岡技術科学大学(工)			
富山大学(工)			
金沢大学(理工)			
岐阜大学(工)			
静岡大学(工)			
名古屋大学(工)			
名古屋工業大学(工)			
豊橋技術科学大学(工)			
三重大学(工)			
大阪大学(工)			
大阪大学(基礎工)			
神戸大学(工)			
奈良女子大学(理)			
岡山大学(工)			
山口大学(工)			
徳島大学(工)			
九州大学(芸術工)			
九州工業大学(工)			
立命館大学(理工)			

平成23年度 修了生の進学先

北陸先端科学技術大学院大学
筑波大学大学院
名古屋大学大学院
広島大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学
早稲田大学大学院

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成22年度 卒業生の進学先

工学・理学系	情報系	生物・環境系	繊維・工芸系	その他
--------	-----	--------	--------	-----

鈴鹿高専専攻科	筑波大学(情報)	三重大学(生物資源)	京都工芸繊維大学	新潟大学(農)
筑波大学(理工)	尚美学園大学(情報表現)	福井県立大学(海洋生物)		三重大学(人文学)

千葉大学(工)
東京大学(工)
東京農工大学(工)
横浜国立大学(工)
長岡技術科学大学
群馬大学(工)
金沢大学(理工)
福井大学(工)
岐阜大学(工)
名古屋大学(工)
名古屋工業大学(工)
豊橋技術科学大学
三重大学(工)
大阪大学(工)
奈良女子大学(理)
和歌山大学(システム工)
愛媛大学(工)
大阪府立大学(工)
立命館大学(理工)

平成22年度 修了生の進学先

東京工業大学大学院(理工学)
名古屋大学大学院(工学)
豊橋技術科学大学大学院(工学)
京都工芸繊維大学大学院(工芸科学)
奈良先端科学技術大学院大学(情報科学, バイオサイエンス)
金沢大学大学院(自然科学)
早稲田大学大学院(情報生産システム)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成21年度 卒業生の進学先

工学・理学系	情報系	生物・環境系	繊維・工芸系	その他
--------	-----	--------	--------	-----

鈴鹿高専専攻科	筑波大学(情報)	筑波大学(生命環境)	信州大学(繊維)	新潟大学(経済)
北海道大学(工)		東京工業大学(生命理工学)	京都工芸繊維大学	名古屋市立大学(人文社会)
東北大学(理)		岐阜大学(応用生物科学)		
筑波大学(理工)		三重大学(生物資源)		
東京農工大学(工)				
横浜国立大学(工)				
長岡技術科学大学				
金沢大学(理工)				
岐阜大学(工)				
静岡大学(工)				
名古屋大学(工)				
名古屋工業大学(工)				
豊橋技術科学大学				
三重大学(工)				
大阪大学(工)				
大阪大学(基礎工)				
奈良女子大学(理)				
大阪府立大学(工)				
立命館大学(理工)				

平成21年度 修了生の進学先

筑波大学大学院(システム情報工学)
東京工業大学大学院(総合理工学)
名古屋大学大学院(理学, 工学, 情報科学)
名古屋工業大学大学院(工学)
豊橋技術科学大学大学院(工学)
大阪大学大学院(工学)
奈良先端科学技術大学院大学(物質創成科学)
大阪市立大学大学院(工学)

資料 6 - 1 - ③ - 3 続き

平成20年度 卒業生の進学先

工学・理学系	情報系	生物・環境系	繊維・工芸系	その他
--------	-----	--------	--------	-----

鈴鹿高専専攻科	筑波大学(情報)	信州大学(繊維)
東北大学(工)	静岡大学(情報)	京都工芸繊維大学

筑波大学(理工)
千葉大学(工)
東京農工大学(工)
東京海洋大学(海洋工)
電気通信大学
長岡技術科学大学
金沢大学(工)
福井大学(工)
岐阜大学(工)
名古屋大学(工)
名古屋工業大学(工)
豊橋技術科学大学
三重大学(工)
京都大学(工)
大阪大学(工)
神戸大学(工)
奈良女子大学(理)
岡山大学(工)
広島大学(工)
琉球大学(工)
大阪府立大学(工)
立命館大学(理工)
同志社大学(工)
豊田工業大学

平成20年度 修了生の進学先

東京工業大学大学院(理工学)
名古屋大学大学院(工学)
豊橋技術科学大学大学院(工学)
三重大学大学院(生物資源学)
京都工芸繊維大学大学院(工芸科学)

資料 6－1－③－3 続き

平成19年度 卒業生の進学先

工学・理学系	情報系	生物・環境系	繊維・工芸系	その他
--------	-----	--------	--------	-----

鈴鹿高専専攻科	筑波大学(図書館情報)	筑波大学(第二学群)	京都工芸繊維大学	北海道大学(教育)
東北大学(工)	静岡大学(情報)	東京工業大学(生命理工学)		筑波大学(第一学群)
筑波大学(第三学群)	名古屋大学(情報文化)	三重大学(生物資源)		東京農工大学(農)
千葉大学(工)				神戸大学(発達科学)
東京農工大学(工)				
電気通信大学				
新潟大学(工)				
長岡技術科学大学				
岐阜大学(工)				
静岡大学(工)				
名古屋大学(工)				
名古屋工業大学(工)				
豊橋技術科学大学				
三重大学(工)				
京都大学(工)				
大阪大学(工)				
神戸大学(理)				
奈良女子大学(理)				
岡山大学(理)				
岡山大学(工)				
山口大学(工)				
九州工業大学(工)				
大阪府立大学(工)				
立命館大学(理工)				

平成19年度 修了生の進学先

筑波大学大学院
名古屋大学大学院
京都工芸繊維大学大学院
広島大学大学院
奈良先端科学技術大学院大学
九州工業大学大学院

(出典 学生課資料)

（分析結果とその根拠理由）

毎年度の就職率100%の実績は、受入企業において卒業（修了）生が期待されるだけの能力を発揮し、それを企業側に認められていることを意味している。就職先として工業系企業が中心であることは、「我が国の工業発展を支える有能な実践的技術者を育成すること」と謳っている「目的」の趣旨を反映し、本校の養成する人材像や専門性が活かされる状況であるといえる。また、およそ半分の卒業（修了）生が、より「高い専門知識」の修得を目指して進学している。

以上のことから、本校の卒業（修了）生は、おおむね本校の「目的」において意図している養成すべき人材像を体現しているものと思われ、教育の成果や効果は十分に上がっていると判断できる。

観点 6－1－④： 学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では、学生が行う学習・教育目標達成度評価は、準学士課程の第2学年以上及び専攻科課程の2年次において、「学生自身による（〇〇学科）学習・教育目標の達成度評価シート」を用いて実施している。評価シートの各設問は、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力について、その時点における達成状況を学生が判断しやすくするために、具体的な文言による問いかけとなっている（資料6－1－④－1）。学生は、年度初めに（課程最終年度生は年度末にも）、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力に関連した各項目に対して、自己の達成度を5段階で評価し、シートに記入している。得られた結果は、次年度に自己点検評価・改善委員会（資料6－1－④－2）が分析を行っている（資料6－1－④－3，4）。

準学士課程第5学年に行った分析結果（資料6－1－④－5）によると、各学科ともに「学習・教育目標」の各項目は概ね平均3点以上である。

専攻科課程2年次に行った分析結果（資料6－1－④－5）においては、（B）基礎・専門の知識とその応用力＜専門＞の項目において平均3点を下回る専攻があるものの、他の項目においては概ね3点以上である。

資料 6 - 1 - ④ - 1

学生自身による学習・教育目標達成度評価シート（準学士課程）の設問項目

「学習・教育目標」に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号に○を付けて下さい。履修していない科目等に基づく達成度は、「1」を選択して下さい。

（A）技術者としての姿勢

＜視野＞

- （1） 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが [5. よくある。→→→→ 1. 全くない。]
- （2） 新聞や TV などのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが [5. よくある。→→→→ 1. 全くない。]
- （3） 新聞や TV などのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが [5. よくある。→→→→ 1. 全くない。]
- （4） 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうあるべきかを考えることが [5. よくある。→→→→ 1. 全くない。]

＜技術者倫理＞

- （1） 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞や TV などのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事（例えば①自動車の車軸の強度不足を認識していたがリコールせず放置していた、②生産活動の結果、環境を破壊した、③ずさんな工程管理のため食中毒を引き起こした、等の事件）を通じて、技術者としてあるべき姿を [5. はっきり思い描くことができる。→→→→ 1. 全く思い描くことができない。]
- （2） これまで学んできた技術が環境にどういう影響を与えるかを [5. はっきり思い描くことができる。→→→→ 1. 全く思い描くことができない。]

＜意欲＞

実験や創造工学・卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. 積極的に分かるまで調べた。4. 積極的に図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 分からなかったので関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

（B）基礎・専門の知識とその応用力

＜基礎＞

- （1） 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、[5. 必要とする公式や定理などをすぐに思いつき使うことができる。→→→→ 1. ほとんど使えない。]
- （2） 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、[5. 必要とする原理や法則などをすぐに思いつき使うことができる。→→→→ 1. ほとんど使えない。]
- （3） ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、安全なネットワークの利用法等の情報基礎について [5. 熟知している。→→→→ 1. 全く知識がない。]
- （4） 上記の情報基礎に関する知識を、[5. 実験または卒業研究などにおいて活用できる。→→→→ 1. 全く活用できない。]

＜専門＞ 機械工学科学学生対象

- （1） 生産・製造方法等に関連する知識は、機械設計製図、総合実習、材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学（熱工学）、水力学（流体工学）、機械力学、機械工学序論、機械工作法、機械加工学、機械運動学、熱流体工学基礎、機械設計法、生産システム、材料学Ⅰ、材料学Ⅱ、電気工学概論、電子回路、メカトロニクス、ロボット工学等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→ 1. 全く理解していない。]
- （2） 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、材料学Ⅰ、材料学Ⅱ、弾性学、塑性加工学等のほか、工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→ 1. 全く理解していない。]
- （3） 計測技術に関連する知識は、計測工学、制御工学、計測機援用工学等のほか、機械工作実習・総合実習や工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→ 1. 全く理解していない。]
- （4） 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な 4 力学（材料力学、熱力学、流体力学、機械力学）の計測原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→

資料 6 - 1 - ④ - 1 続き

→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]

- (5) 自らが得た実験結果等に対して、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ及び情報処理応用等の知識をもとに、論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (6) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、機械工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、機械工学に関する専門分野の知識や情報をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、機械工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、機械工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（総合実習、創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

＜専門＞ 電気電子工学科学生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、電気電子工学序論、電気電子製図、電気磁気学、電気回路、電子回路、ディジタル回路、半導体工学、電気機器、電力システム工学、を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、電子物性基礎、電気電子材料のほか、工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (3) 計測技術に関連する知識は、電気電子計測、電気磁気学、電気回路、電子回路、ディジタル回路、半導体工学、電気機器、通信理論等のほか、工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な電子回路、シーケンサ、センサの原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (5) 自らが得た実験結果等に対して、電気電子計測、情報処理、計算機システム、応用情報処理及び情報通信工学の知識をもとに、論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (6) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

＜専門＞ 電子情報工学科学生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、ディジタル回路、基礎制御工学、電子制御工学、ソフトウ

資料 6－1－④－1 続き

- ェア工学，計算機アーキテクチャ，情報通信ネットワーク，電子情報工学実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 材料の種類，特性・性質等に関連する知識は，電子工学，電子材料工学，集積回路工学，電子情報工学実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (3) 計測技術に関する知識は，電子機器学，電子回路，電子計測，電子情報工学実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 効率的な問題解決システムの構築または利用に関する知識は，オペレーティングシステム，データ構造とアルゴリズム，画像処理工学，人工知能，電子情報工学実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (5) 自らが得た実験結果等に対して，情報関連科目の知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (6) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して，電子情報工学に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を，電子及び情報に関する専門分野の知識や情報をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために，電子及び情報に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート，論文等を整理するために，電子及び情報に関する専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (4) 社会（社会貢献，環境負荷等）に対して，自分の課題（創造工学，卒業研究）をどのように設定して，どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

＜専門＞ 生物応用化学科学生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は，化学工学Ⅰ，化学工学Ⅱ，生物化学工学，反応工学，生物反応工学，無機工業化学，有機工業化学，微生物学Ⅰ，微生物学Ⅱ及び化学設計製図等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 原料・材料及び製品等の種類，性質等に関連する知識は，無機工業化学，有機工業化学，高分子化学，機能材料工学，微生物学Ⅰ，微生物学Ⅱ，分子生物学，タンパク質化学及び生物情報工学等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (3) 分析や計測に関連する知識は，分析化学，機器分析化学，環境分析化学，タンパク質化学，遺伝子工学，生物応用化学実験，応用化学コース実験及び生物化学コース実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 自らが得た実験結果等に対して，情報処理Ⅰ，情報処理Ⅱ及び情報処理応用等の知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (5) 環境に関する知識は，環境工学等を通じて [5. しっかり理解しているつもりである。→→→1. 全く理解していない。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を，化学及び生物化学に関する専門知識や実験技術等をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために，化学及び生物化学に関する専門知識や実験技術を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート，論文等を整理するために，化学及び生物化学に関する専門知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

資料 6－1－④－1 続き

- (4) 社会（社会貢献，環境負荷等）に対して，自分の課題（創造工学，卒業研究）をどのように設定して，どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

＜専門＞ 材料工学科学生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は，機械工作法，生産工学，接合工学，材料プロセス工学，鋳造工学，設計製図Ⅰ，設計製図Ⅱ，設計製図Ⅲ，設計製図Ⅳ，塑性加工，半導体工学，材料設計学，材料保証学等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 原料・材料及び製品等の種類，性質等に関連する知識は，材料工学序論，基礎材料学，材料組織学，材料強度学，無機材料，有機材料，鉄鋼材料，機能材料，複合材料，非鉄金属材料，粉体材料，材料力学，半導体工学，固体物性等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (3) 材料の化学に関する知識は，無機化学，有機化学，材料物理化学Ⅰ，材料熱力学，材料物理化学Ⅱ，材料表面工学，電気化学，固体物性等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 分析や計測に関連する知識は，結晶解析学，材料機器分析，材料評価法，電気工学基礎，基礎デジタル回路，材料工学実験等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (5) 自らが得た実験結果等に対して，情報処理Ⅰ，情報処理Ⅱ，情報処理Ⅲ，コンピュータ応用等の知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (6) 環境に関する知識は，環境材料学や材料工学に関する専門分野の知識や情報を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を，材料工学に関する専門知識や実験技術等をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために，材料工学に関する専門知識や実験技術を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート，発表内容，論文等を整理するために，材料工学に関する専門知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (4) 社会（社会貢献，環境負荷等）に対して，自分の課題（創造工学，卒業研究）をどのように設定して，どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

（C）コミュニケーション能力

＜発表＞

- (1) レポートまたは研究論文は，読み手に [5. 80 %以上理解させることができる→→→1. 全く理解させることができない]ものであった。
- (2) 口頭発表は，聞き手に [5. 80%以上理解させることができる→→→1. 全く理解させることができない]ものであった。

＜英語＞

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を [5. 理解できる。→→→1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって，自分が行った研究の概要を [5. 十分正確に記述することができた。→→→1. あまり正確に記述することができなかった。]

＜学校の目的の周知＞

教育理念，養成すべき人材像，教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育目標」を [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

（出典 教務委員会資料）

資料 6－1－④－1 続き

学生自身による学習・教育目標達成度評価シート（専攻科課程）の設問項目

「学習・教育目標」に関する以下の項目について、学科第 4 学年から現在までの達成度に該当する番号に○を付けて下さい。

（A）技術者としての姿勢

<視野>

- （1） 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが [5. よくある。→→→→1. 全くない。]
- （2） 新聞や TV などのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが [5. よくある。→→→→1. 全くない。]
- （3） 新聞や TV などのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが [5. よくある。→→→→1. 全くない。]
- （4） 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えることが [5. よくある。→→→→1. 全くない。]

<技術者倫理>

- （1） 新聞や TV などのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事（例えば①自動車の車軸の強度不足を認識していたがリコールせず放置していた、②生産活動の結果、環境を破壊した、③ずさんな工程管理のため食中毒を引き起こした、等の事件）を見て、技術者としてあるべき姿を [5. はっきり思い描くことができる。→→→→1. 全く思い描くことができない。]
- （2） これまで学んできた技術が環境にどのような影響を与えるかを [5. はっきり思い描くことができる。→→→→1. 全く思い描くことができない。]

<意欲>

創造工学や卒業研究・特別研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. 積極的に分かるまで調べた。4. 積極的に図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 分からなかったので関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

（B）基礎・専門の知識とその応用力

<基礎>

- （1） 研究・開発または数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、[5. 必要とする公式や定理などをすぐに思いつき使うことができる。→→→→1. ほとんど使えない。]
- （2） 研究・開発または物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、[5. 必要とする原理や法則などをすぐに思いつき使うことができる。→→→→1. ほとんど使えない。]
- （3） ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、安全なネットワークの利用法等の情報基礎について [5. 熟知している。→→→→1. 全く知識がない。]
- （4） 上記の情報基礎に関する知識を、[5. 特別研究・卒業研究などにおいて活用できる。→→→→1. 全く活用できない。]

<専門> 機械工学科卒業生対象

- （1） 生産・製造方法等に関連する知識は、機械設計製図、各種加工学及び生産システム等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- （2） 機械設計に関連する諸問題に対して、必要とされる設計・システム系及び力学系に関する基礎工学の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- （3） 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、物性工学をはじめ、複合材料、表面及びマイクロプロセスの各工学を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- （4） 材料の種類、特性・性質等に関連する諸問題に対して、必要となる基礎的な材料学の知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- （5） 計測技術に関連する知識は、センサ工学や非破壊検査工学のほか工学実験を通じて [5. 十分理解

資料 6 - 1 - ④ - 1 続き

- していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (6) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な 4 力学（機械力学，材料力学，熱力学，流体力学）の計測原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
 - (7) 科学実験法や信頼性工学を通じて学んだ効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
 - (8) 自らが得た実験結果等に対して，応用情報工学やデータ処理システムの知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
 - (9) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して，環境保全工学等の基礎工学，生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

<専門> 電気電子工学科卒業生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は，電気回路，電気機器を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 電気回路，電気機器に関連する諸問題に対して，必要とされる設計・システム系及び力学系に関する基礎工学の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 材料の種類，特性・性質等に関連する知識は，物性工学をはじめ，複合材料，表面及びマイクロプロセスの各工学を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 材料の種類，特性・性質等に関連する諸問題に対して，必要となる基礎的な電気電子材料学の知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (5) 計測技術に関連する知識は，センサ工学や非破壊検査工学のほか工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (6) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して，必要となる基礎的な電子回路，シーケンサ，センサの原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (7) 科学実験法や信頼性工学を通じて学んだ効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (8) 自らが得た実験結果等に対して，応用情報工学やデータ処理システムの知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (9) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して，環境保全工学等の基礎工学，生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

<専門> 電子情報工学科卒業生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は，制御工学，情報通信ネットワーク等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 電子回路設計，ソフトウェア開発に関連する諸問題に対して，必要とされる設計・システム系及び力学系に関する基礎工学の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 材料の種類，特性・性質等に関連する知識は，物性工学をはじめ，複合材料，表面及びマイクロプロセスの各工学を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 材料の種類，特性・性質等に関連する諸問題に対して，必要となる基礎的な材料工学の知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]

資料 6－1－④－1 続き

- (5) 計測技術に関連する知識は、センサ工学や非破壊検査工学のほか工学実験を通じて [5. しっかり理解しているつもりである。→→→1. 全く理解していない。]
- (6) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な電子回路、電子材料、プログラミングに関する原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (7) 科学実験法や信頼性工学を通じて学んだ効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (8) 自らが得た実験結果等に対して、応用情報工学やデータ処理システムの知識をもとに、論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (9) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、環境保全工学等の基礎工学、生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜専門＞ 生物応用化学科卒業生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、化学工学Ⅱ，生物化学工学，無機工業化学，反応工学，細胞工学及び移動現象論等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 生産・製造方法に関連する諸問題に対して、必要となる化学工学Ⅰ，化学製図等の設計・システム系及び力学系に関する基礎工学の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 原料・材料及び製品等の種類，特性・性質等に関連する知識は，有機工業化学，無機工業化学及び物性工学等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (4) 原料・材料及び製品等の種類，特性・性質等に関連する諸問題に対して，必要となる高分子化学及び微生物学の知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (5) 計測技術に関連する知識は，センサ工学や分析化学特論のほか工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (6) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して，機器分析及び定量分析の原理や方法を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (7) 科学実験法や信頼性工学を通じて学んだ効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (8) 自らが得た実験結果等に対して，応用情報工学やデータ処理システムの知識をもとに，論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
- (9) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して，環境工学及び環境保全工学等の基礎工学，生産システムに関する専門工学及び主となる専門分野の知識や情報を，[5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜専門＞ 材料工学科卒業生対象

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は，接合工学，鋳造工学等の各種加工学及び生産システム等を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
- (2) 材料の製造プロセス及び機械要素の設計に関連する諸問題に対して，必要とされる設計・システム系及び力学系に関する基礎工学の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助

資料 6－1－④－1 続き

- 言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、物性工学をはじめ、金属材料Ⅱ、半導体材料、複合材料、有機材料等の各工学を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
 - (4) 材料の種類、特性・性質等に関連する諸問題に対して、必要となる基礎的な金属材料Ⅰの知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
 - (5) 計測技術に関連する知識は、センサ工学や非破壊検査工学のほか工学実験を通じて [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解していない。]
 - (6) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な応用物理、材料力学、材料強度工学の知識や情報を [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
 - (7) 科学実験法や信頼性工学を通じて学んだ効率的な問題解決システムの構築または利用に関連する知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
 - (8) 自らが得た実験結果等に対して、応用情報工学やデータ処理システムの知識をもとに、論理的な解析や整理を [5. 自力で行うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度行うことができる。]
 - (9) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、環境保全工学等の基礎工学、生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]

＜展開＞

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報をもとに [5. 自力で見出せることがしばしばある。→→→1. 見出す術が全く思いつかないことばかりである。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、生産システムに関する専門工学や主となる専門分野の知識や情報を [5. 自力で使うことができる。→→→1. 助言を受けることである程度使うことができる。]
- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究、特別研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

（C）コミュニケーション能力

＜発表＞

- (1) 研究論文は、読み手に [5. 80 % 以上理解させることができる→→→1. 全く理解させることができない]ものであった。
- (2) 口頭発表は、聞き手に [5. 80 % 以上理解させることができる→→→1. 全く理解させることができない]ものであった。

＜英語＞

- (1) 専門科目の学習・卒業研究または特別研究に関連する英文を読んで内容を [5. 理解できる。→→→1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を [5. 十分正確に記述することができた。→→→1. あまり正確に記述することができなかった。]

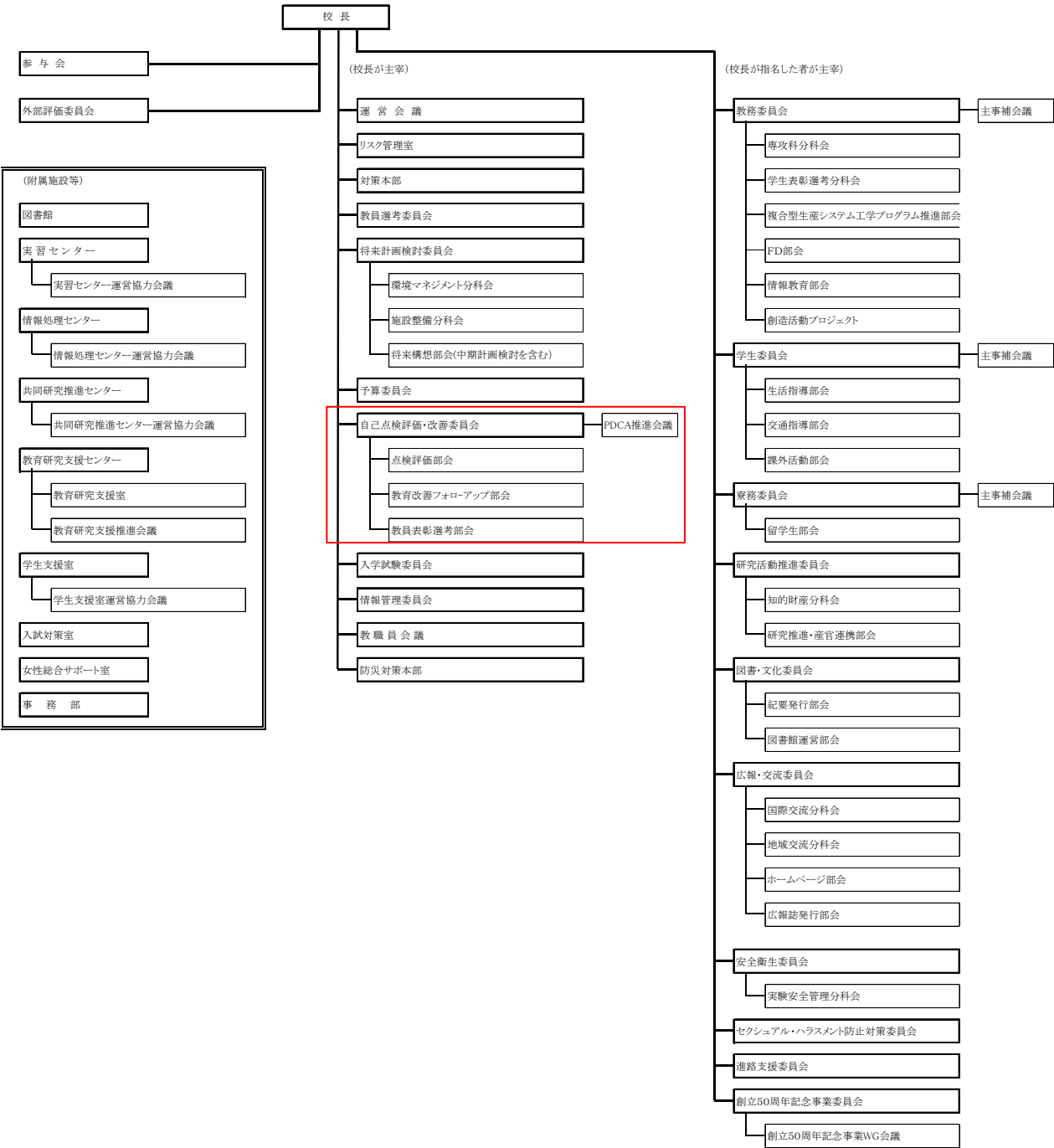
＜学校の目的の周知＞

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育目標」を [5. 十分理解していると思う。→→→1. 全く理解できていない。]

（出典 教務委員会資料）

平成24年度実施体制組織図

平成24年4月1日現在

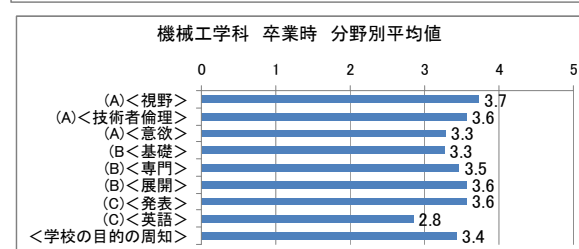
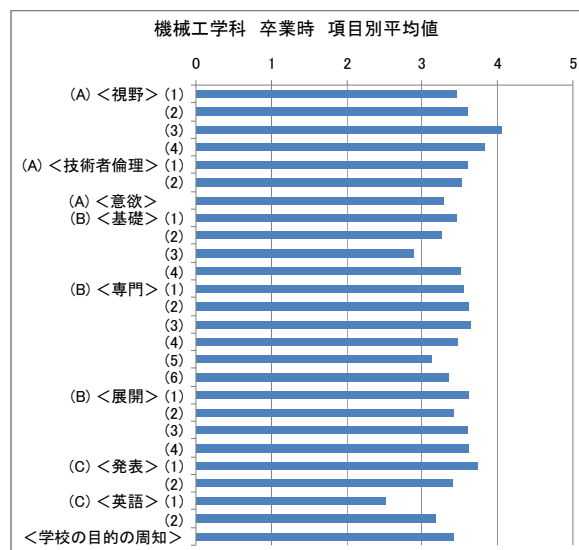


(出典 総務課資料)

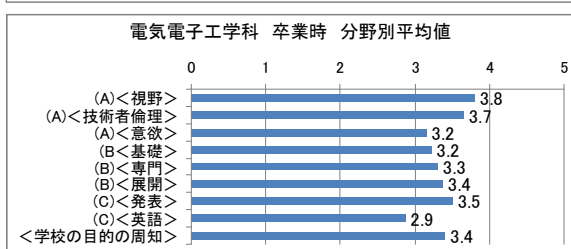
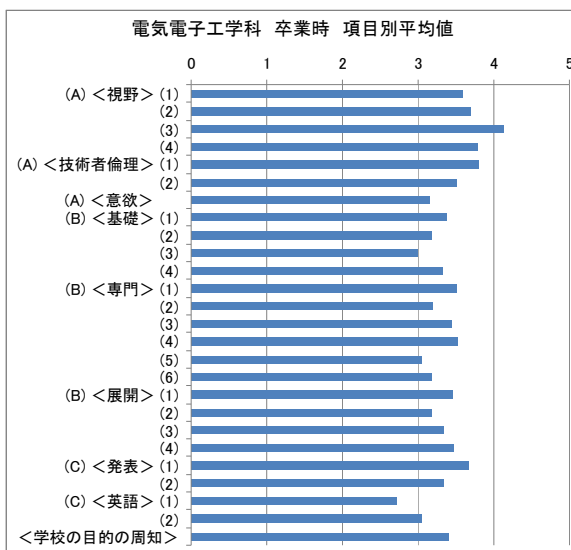
資料 6-1-④-3

平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価結果(準学士課程 卒業時)

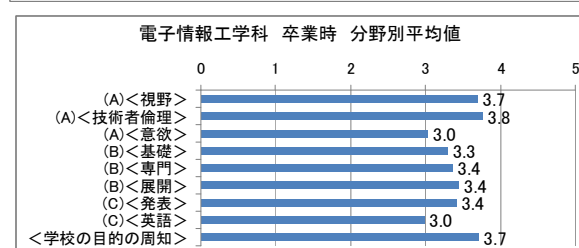
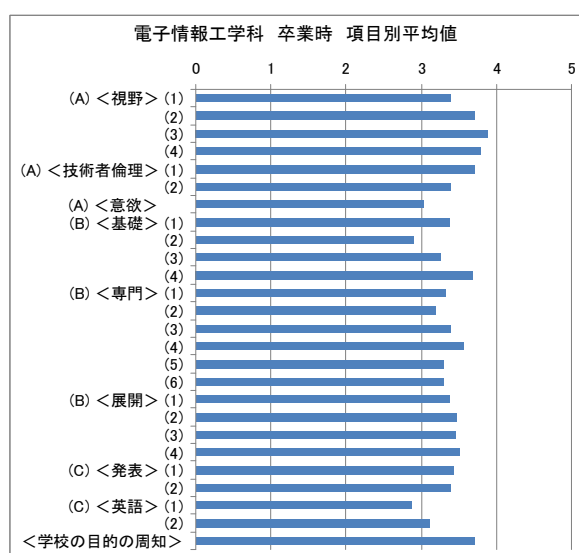
第5学年 機械工学科学生



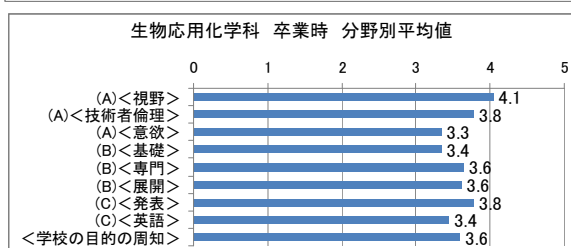
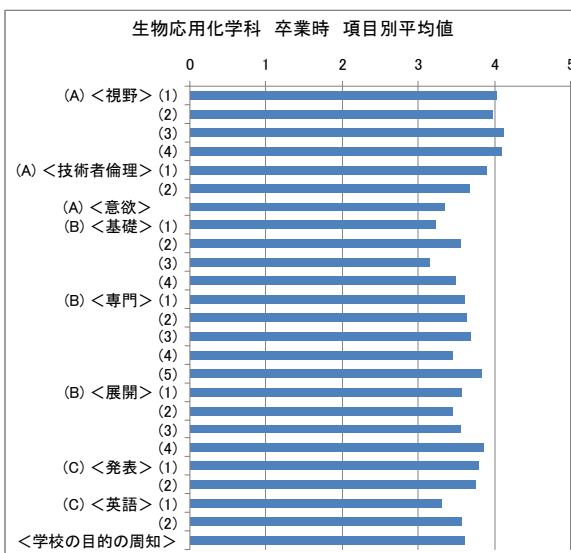
第5学年 電気電子工学科学生



第5学年 電子情報工学科学生

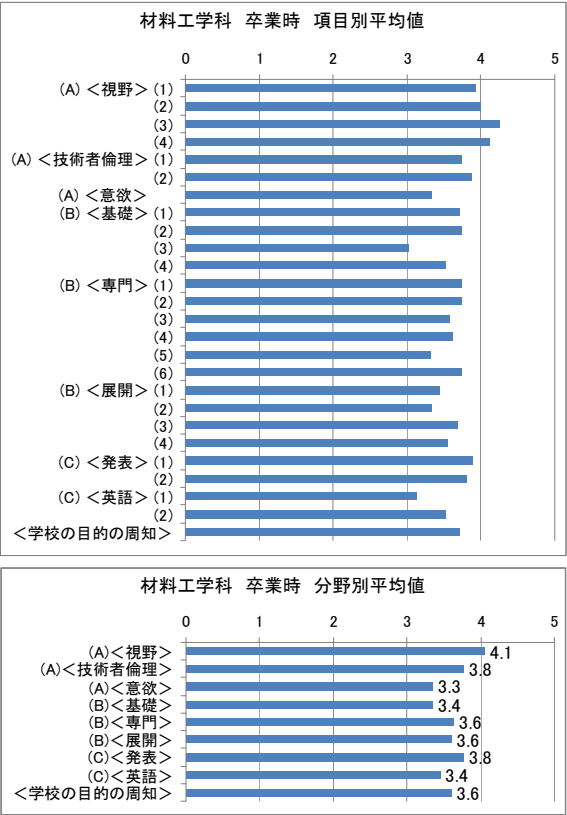


第5学年 生物応用化学科学生



資料 6－1－④－3 続き

第5学年 材料工学科学生

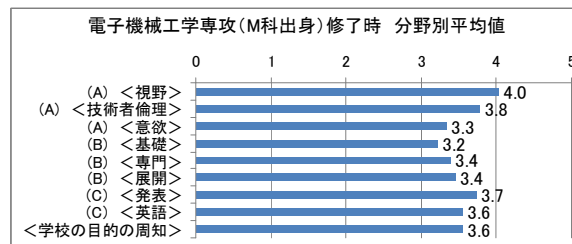
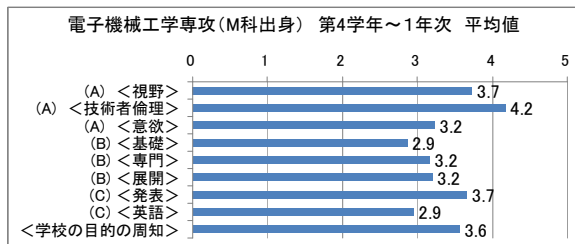
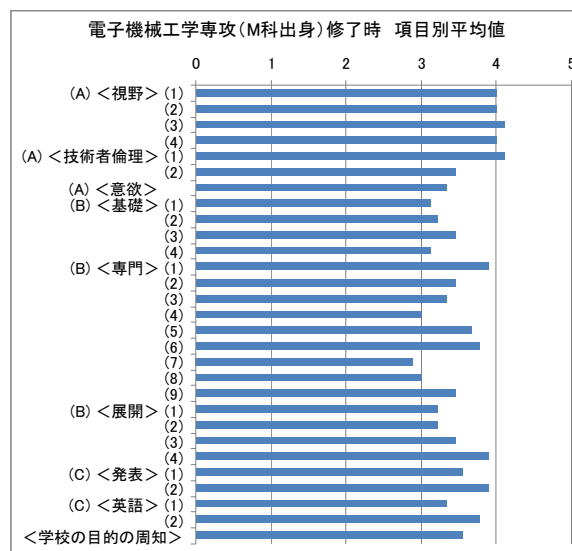
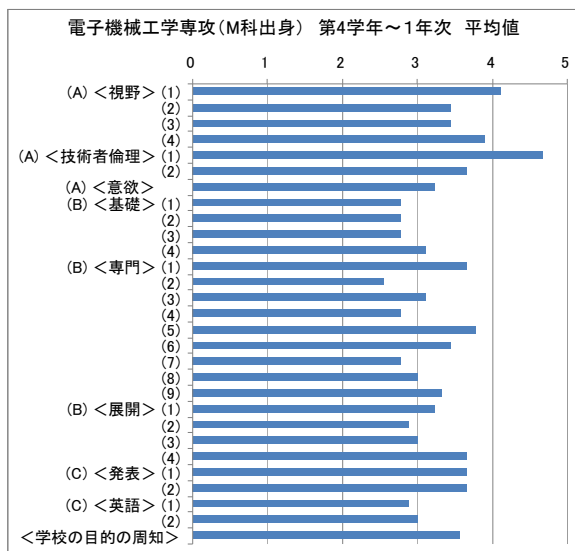


(出典 教務委員会資料)

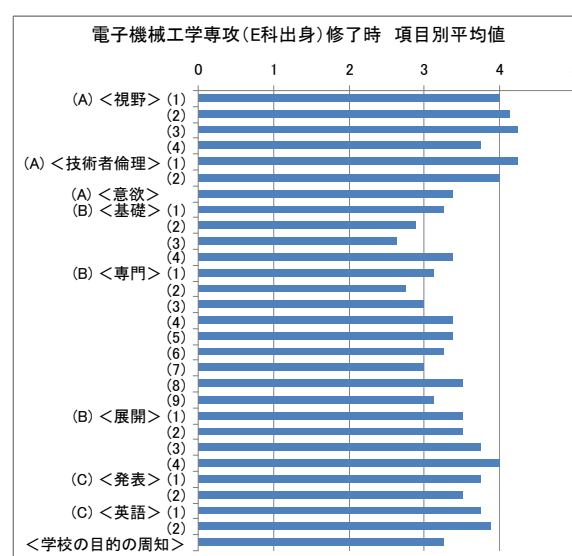
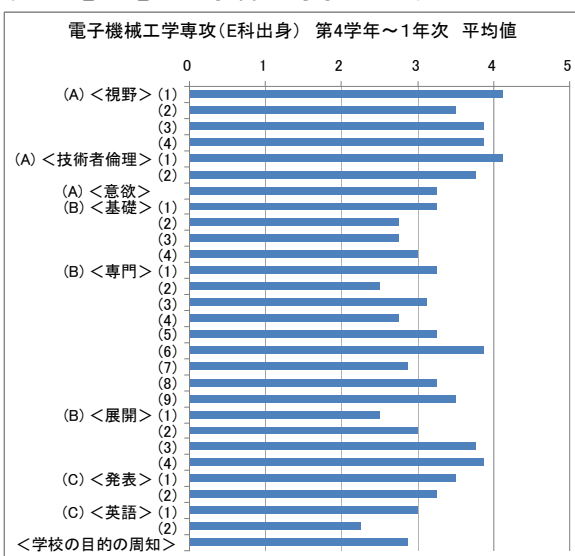
平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価結果(専攻科課程 修了時)

電子機械工学専攻

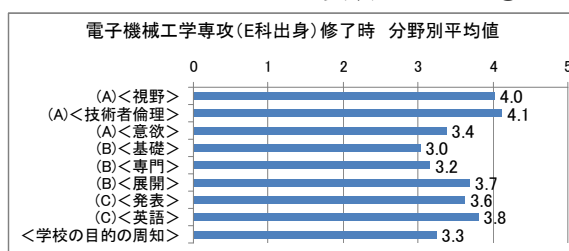
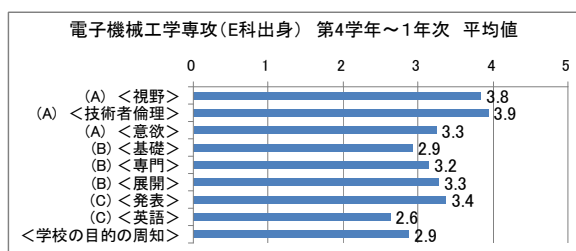
2 年次 機械工学科出身学生 9 名



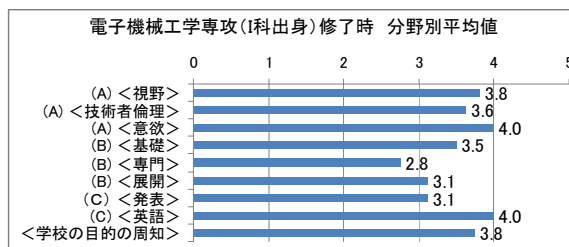
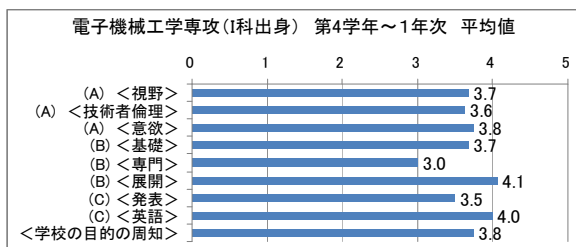
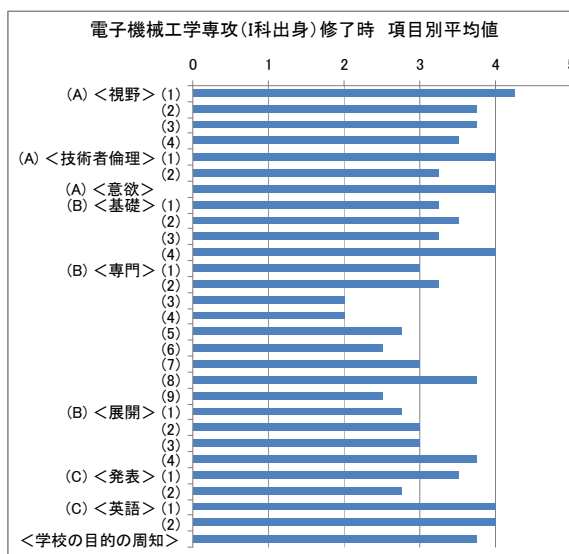
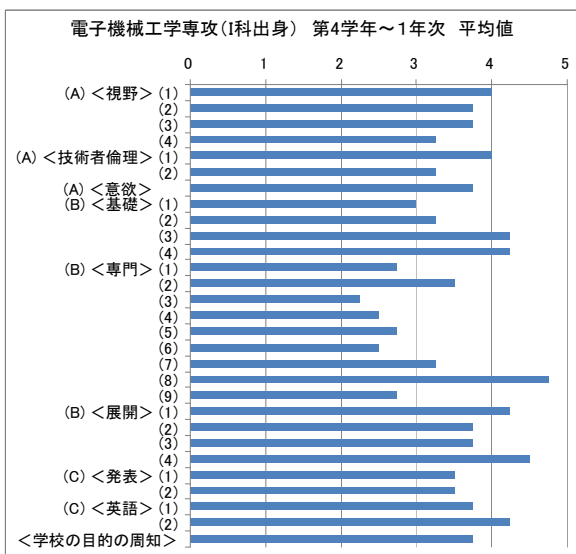
2 年次 電気電子工学科出身学生 8 名



資料 6 - 1 - ④ - 4 続き



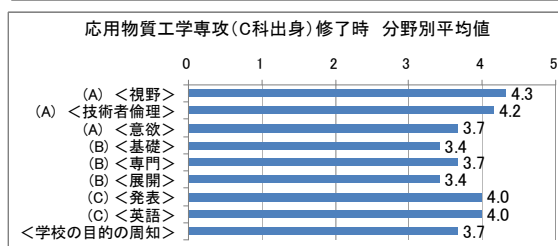
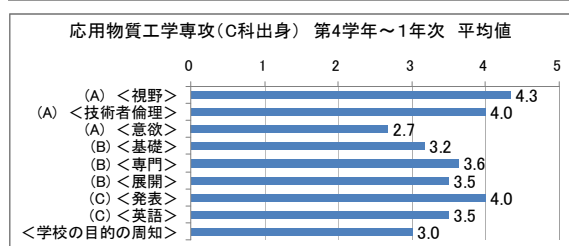
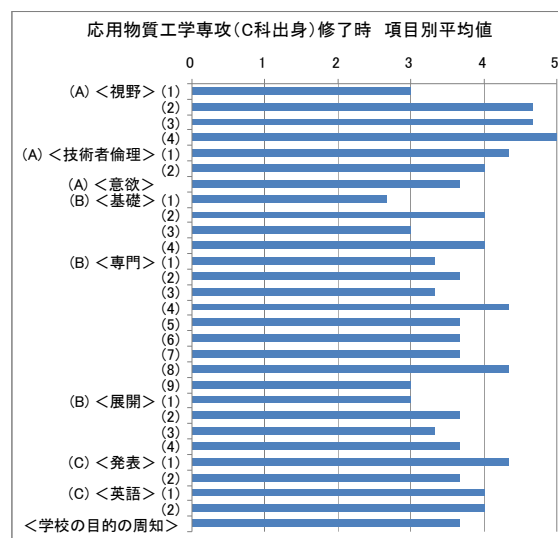
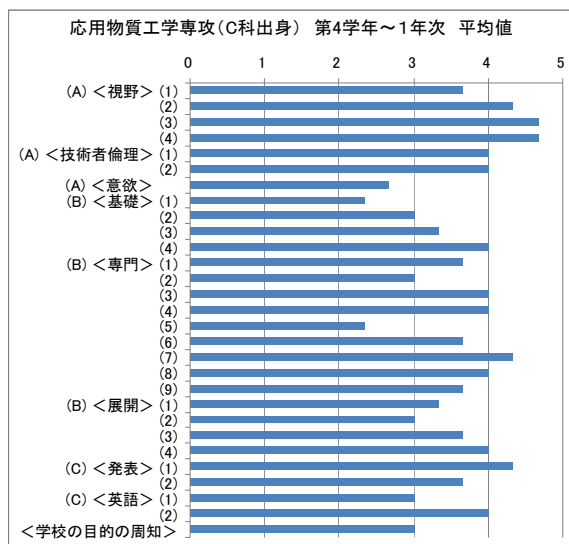
2年次 電子情報工学科出身学生 4 名



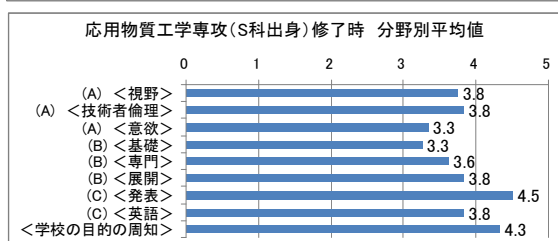
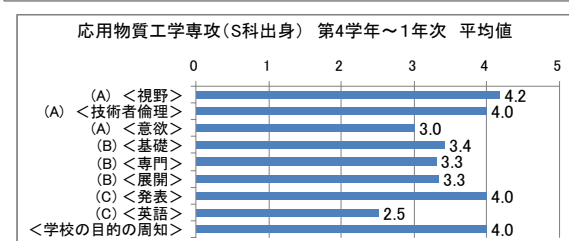
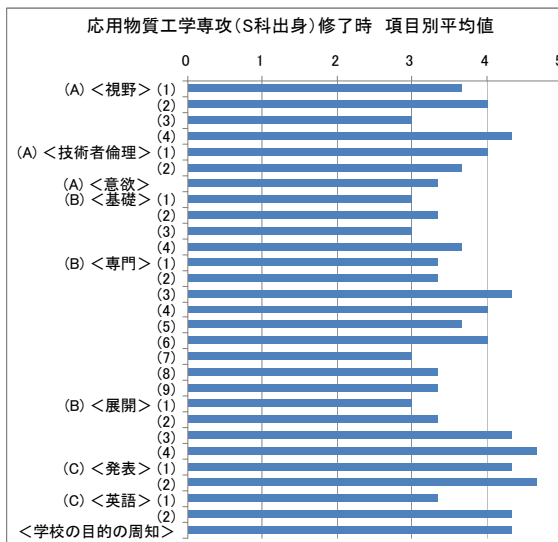
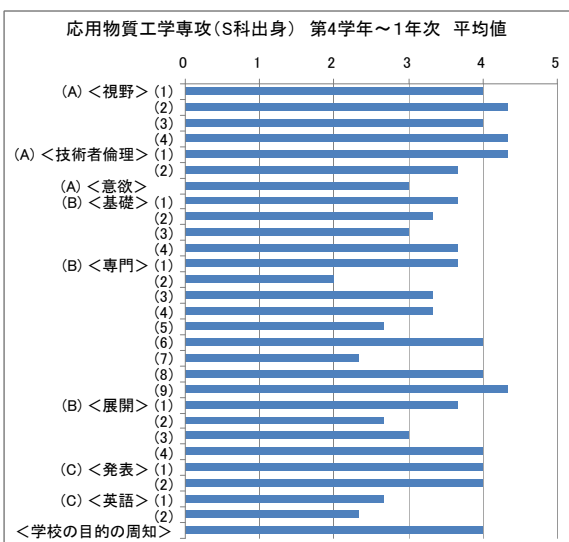
資料 6 - 1 - ④ - 4 続き

応用物質工学専攻

2年次 生物応用化学科出身学生 3名



2年次 材料工学科出身学生 3名



(出典 教務委員会資料)

平成 23 年度 JABEE・点検評価 合同部会 アンケート調査結果報告(抜粋)

(中略)

5. 平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価について(卒業・修了時)

(資料:平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価のまとめ(学科))

(資料:平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価のまとめ(専攻科))

学校の目的の周知状況(学科卒業時) :

教育理念, 養成すべき人材像, 教養・専門教育の目標等に基づく各学科の「学習・教育目標」の理解についての自己評価は, 5 段階評価で平均 3.4~3.7 と概ね理解されている。

学校の目的の周知状況(専攻科修了時) :

専攻科の「学習・教育目標」の理解についての自己評価は, 平均 3.3~4.3 と概ね理解されている。

「学習・教育目標」の達成度自己評価(学科卒業時) :

各学科の「学習・教育目標」に対応する達成度評価シートを用いた各項目の自己評価は, 概ね平均 3 以上ある。

「学習・教育目標」の達成度自己評価(専攻科修了時) :

専攻科の「学習・教育目標」に対応する達成度評価シートを用いた各項目の自己評価は, 概ね平均 3 以上あるが, 「学習・教育目標」(B) <専門>に関する項目に対して, 平均 3 を下回る専攻がある。

6. 平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価について(学科 各学年)

(資料:平成 23 年度 学生自身による「学習・教育目標」の達成度評価のまとめ(学科 各学年))

学校の目的の周知状況(学科 第 2 学年~第 5 学年学生 年度当初) :

各学科の第 2 学年~第 5 学年学生による年度当初の自己評価は, 概ね平均 3 以上あるが, 平均 3 を下回る学年がある。

「学習・教育目標」の達成度自己評価 :

各学科ともに, 高学年の学生ほど達成度の自己評価結果の向上が認められる。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生が行う学習・教育目標達成度評価の集計から得られた達成状況を確認した結果、準学士課程及び専攻科課程ともに、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力の達成度は、多くの項目において、概ね3点以上の評価が得られていることから、学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では、卒業（修了）から2年を経過した卒業（修了）生に対して、学校として明確にしている卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力、すなわち「学習・教育目標」がどの程度身に付いているかや、卒業（修了）後の成果について、アンケート調査を実施している（資料6-1-⑤-1）。このほか、前年度に卒業（修了）した卒業（修了）生の就職先及び進学先に、同様に「学習・教育目標」がどの程度身に付いているかや、卒業（修了）後の成果についてのアンケート調査を実施している（資料6-1-⑤-2）。

本校における「学習・教育目標」の特徴として、「(A)技術者としての姿勢」及び「(C)コミュニケーション能力」については、準学士課程と専攻科課程で同様の文言を採用し、それぞれの項目を専攻科課程においてより深化させることを狙いとしている。その観点から卒業（修了）生によるアンケート結果（資料6-1-⑤-3, 4）を検討すると、卒業生と修了生の違いは「(A)技術者としての姿勢」においてこそ見られないが、「(C)コミュニケーション能力」においては大きな進歩が確認される。「(B)基礎・専門の知識とその応用力」については、各課程において求められるレベルを満たしているとの結果が得られた。また、進学先・就職先の上司のアンケート結果（資料6-1-⑤-5, 6）から、本校の卒業（修了）生は、全ての項目において高い評価を得ていることが確認でき、かつそれぞれの分野で優れた成果を発揮していることが示されている。

資料 6－1－⑤－1

卒業（修了）生へ向けたアンケートについて

平成 23 年 11 月 1 日

平成 21 年度 材料工学科 卒業生の皆様

鈴鹿工業高等専門学校長
高 橋 誠 記
(公 印 省 略)

「学習・教育目標」の達成度及び満足度等に関するアンケート調査について（依頼）

卒業生の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は、知徳体三育の全人教育を範とする建学の精神に則り、我が国の工業発展を支える創造的な実践的技術者を育成することを使命とし、技術者教育を担う高等教育機関に求められる民間企業等の社会的要請及び科学技術の高度化と国際化の進展等を踏まえた教育理念、養成すべき人材像、教育目標を分かりやすく整理した「材料工学科 学習・教育目標」を常に念頭に置いた教育を実践するとともに、継続的に改善・改良を加えていくため、就職先企業の上司の方による卒業生の「学習・教育目標」の達成度評価アンケート等を実施しています。

さらに、本校の教育・学生支援に対する満足度等に関して、卒業予定者によるアンケート調査も毎年実施しています。

このような材料工学科の教育の成果及び学校評価等について、現状での課題等を把握し、今後改善を進めていくために、まもなく卒業後 2 年を経過されようとしている皆様にアンケートを実施させていただくことといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、卒業時における「学習・教育目標」の達成度及び本校の教育・学生支援に対する満足度等について、現時点でのお考えを忌憚なくお聞かせいただきたく存じます。

アンケートの回答はこちらからお願いいたします。

アンケート回答用 URL : <https://www.suzuka-ct.ac.jp/cgi-bin/form18/s22.html>

卒業生の皆様には本校に対して今後とも暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、アンケートは、11 月末日までにご回答いただければ幸いです。

＊ 本件につきまして、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

連絡先：鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会 点検評価部会長 長原 滋

電話 059-368-1825(direct) FAX 059-368-1820 E-mail : nagahara@chem.suzuka-ct.ac.jp

資料 6－1－⑤－1 続き

平成 23 年 11 月 1 日

平成 21 年度 専攻科 修了生の皆様

鈴鹿工業高等専門学校長

高 橋 誠 記

(公 印 省 略)

「学習・教育目標」の達成度及び満足度等に関するアンケート調査について（依頼）

修了生の皆様にはお変わりなくご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は、知徳体三育の全人教育を範とする建学の精神に則り、我が国の工業発展を支える創造的な実践的技術者を育成することを使命とし、技術者教育を担う高等教育機関に求められる民間企業等の社会的要請及び科学技術の高度化と国際化の進展等を踏まえた教育理念、養成すべき人材像、教育目標を分かりやすく整理した「複合型生産システム工学 学習・教育目標」を常に念頭に置いた教育を実践するとともに、継続的に改善・改良を加えていくため、就職先企業の上司の方による修了生の「学習・教育目標」の達成度評価アンケート等を実施しています。

さらに、本校の教育・学生支援に対する満足度等に関して、修了予定者によるアンケート調査も毎年実施しています。

このような専攻科の教育の成果及び学校評価等について、現状での課題等を把握し、今後改善を進めていくために、まもなく修了後 2 年を経過されようとしている皆様にアンケートを実施させていただくことといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、修了時における「学習・教育目標」の達成度及び本校の教育・学生支援に対する満足度等について、現時点でのお考えを忌憚なくお聞かせいただきたく存じます。

アンケートの回答はこちらからお願いいたします。

アンケート回答用 URL : <https://www.suzuka-ct.ac.jp/cgi-bin/form18/a22.html>

修了生の皆様には本校に対して今後とも暖かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

なお、アンケートは、11 月末日までにご回答いただければ幸いです。

* 本件につきまして、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

連絡先：鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会 点検評価部会長 長原 滋

電話 059-368-1825(direct) FAX 059-368-1820 E-mail : nagahara@chem.suzuka-ct.ac.jp

(出典 総務課資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2

本年度入社の機械工学科卒業生の上司 殿

鈴鹿工業高等専門学校長

高 橋 誠 記

(公 印 省 略)

鈴鹿工業高等専門学校 平成 22 年度機械工学科卒業生の

「学習・教育目標」の達成度等に関するアンケート調査について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育及び研究に深いご理解と格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、本校の学科卒業生を受け入れていただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、本校は、知徳体三育の全人教育を範とする建学の精神に則り、我が国の工業発展を支える創造的な実践的技術者を育成することを使命とし、技術者教育を担う高等教育機関に求められる民間企業等の社会的要請及び科学技術の高度化と国際化の進展等を踏まえ、教育理念、養成すべき人材像、教育目標を定めています。

さらに、これらを分かりやすく整理して、卒業生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を「機械工学科 学習・教育目標」として提示し、これらを常に念頭に置いた教育を実践するとともに、継続的に改善・改良を加えていくため、在学生及び卒業生自身による「学習・教育目標」の達成度評価アンケートを実施しています。

このような機械工学科の教育の成果等について、現状での課題等を把握し、今後改善を進めていくため、外部関係者に対するアンケートを実施させていただくことといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、御社に本年度入社の機械工学科卒業生を専ら又は主としてご指導いただいている上司の方に、これまでの期間を通じてお感じになった卒業生の能力等を忌憚なくお聞かせいただきたく存じます。

アンケートの回答はこちらからお願いいたします。

アンケート回答用 URL : https://www.suzuka-ct.ac.jp/cgi-bin/form11/2011boss_mech.html

本校の教育につきまして、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、アンケートは、11 月末日までにご回答いただければ幸いです。

敬具

* 本件につきまして、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

連絡先：鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会 点検評価部会長 長原 滋

電話 059-368-1825(direct) FAX 059-368-1820 E-mail : nagahara@chem.suzuka-ct.ac.jp

資料 6－1－⑤－2 続き

平成 23 年 1 月 26 日

鈴鹿高専専攻科修了生 採用企業 人事課御中
進学大学院 学務課御中

鈴鹿工業高等専門学校長
高 橋 誠 記

鈴鹿工業高等専門学校「複合型生産システム工学」プログラムの学習・教育目標、達成度評価および
その成果等に関するアンケートのお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校専攻科修了生の就職・進学でお世話になり、厚く御礼申し上げます。

さて、本校の教育プログラムである「複合型生産システム工学」プログラム^(注1)は、平成 15 年度に国際的な同等性を有した工学教育プログラムであるとして日本技術者教育認定機構（JABEE：Japan Accreditation Board for Engineering Education）^(注2)より認定を受けました。平成 20 年度にはこの認定継続審査が行われ、平成 25 年度までの継続認定を受けております。これに伴い、本校専攻科修了生は、わが国の技術者資格である技術士の一次試験が免除されています。

また、JABEE は平成 17 年 6 月に技術者^(注3)教育の国際的相互承認制度であるワシントン協定（Washington Accord）^(注4)に正会員として加盟が認められ、本校専攻科修了生はこのワシントン協定加盟国において、同等の技術者教育を受けたものとして扱われることになってきており、国際的に活躍できる環境が整いつつあります。

このように本校の教育プログラムは国際的に認められた教育レベルとして構築されてきたところがありますが、これに満足することなく、継続的に改善・改良を加え、より優れた教育プログラムにしていくことが求められております。つきましては、「複合型生産システム工学」プログラムの学習・教育目標、学習・教育目標の達成度評価方法・評価基準、および本教育プログラムの成果等について、現状での課題等を把握し、今後改善を進めていくために、アンケートを実施させていただくことといたしました。

誠に忙しいところを恐縮ですが、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このアンケートは、本校専攻科修了生（「複合型生産システム工学」プログラム修了生）の就職先企業において上司として直接ご指導いただいている方、および進学先大学院において指導教員としてご指導いただいている方を対象としております。企業については人事課、大学院については学務課に送付させていただきますので、ご面倒ですが配属先の上司・指導教員に転送していただきますようお願い申し上げます。

なお、誠に勝手ながら 2 月 28 日(月)までにご回答いただきますよう重ねてお願い申し上げます。
敬具

- * 本件につきまして疑問点・ご質問等ございましたら下記に御連絡ください。
- * 用語（注 1～4）の説明は裏面にございます。

点検評価部会長
長 原 滋
電話：059-368-1825(direct)
mail: nagahara@chem.suzuka-ct.ac.jp

（出典 総務課資料）

平成 21 年度学科卒業生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査

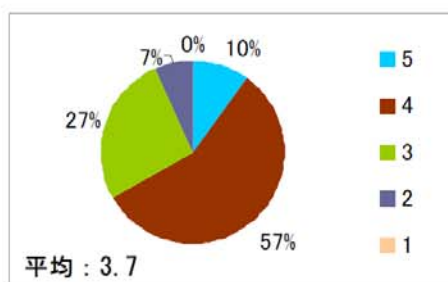
アンケート回答卒業生内訳

機械工学科卒業生	7 名
電気電子工学科卒業生	4 名
電子情報工学科卒業生	9 名
生物応用化学科卒業生	6 名
材料工学科卒業生	4 名

1. 卒業時に学習・教育目標の「(A)技術者としての姿勢」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

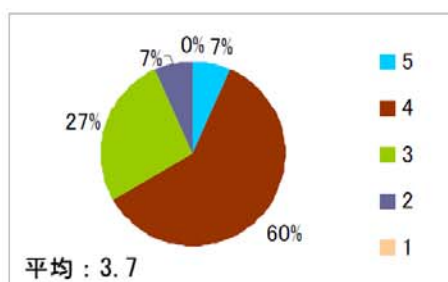
1. 全く身に付かなかった。]



2. 卒業時に学習・教育目標の「(B)基礎・専門の知識とその応用力」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

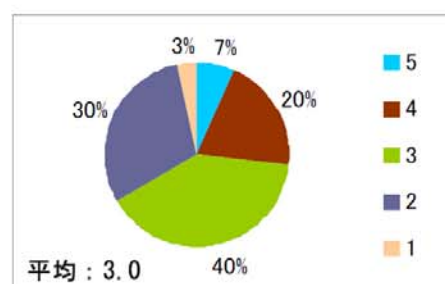
1. 全く身に付かなかった。]



3. 卒業時に学習・教育目標の「(C)コミュニケーション能力」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

1. 全く身に付かなかった。]

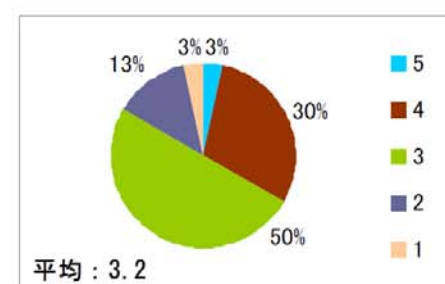


4. 卒業時にエンジニアリング・デザイン能力*
注 を身に付けられたといえるでしょうか？

*注:必ずしも解が一つでない問題に対して習得した幅広い知識・能力を総合的に発揮して実現可能な解を見つけ出す能力

[5. 十分身に付いた。→→→→

1. 全く身に付かなかった。]



資料 6－1－⑤－3 続き

5. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

電子情報工学科卒業生

- ・ 一般的な大学生と比べると、実験などの実践面において優っている。ものづくりに対しての抵抗がなく、率先して取り組む姿勢をとることが出来る。

生物応用化学科卒業生

- ・ 大学卒、院卒の方と比べ実践的な知識を持っているように感じた(大卒、院卒の人は専門知識が深いですがそれ以外の分野については苦手意識を持っている人が多いと感じた)。
- ・ 様々な専門科目に触れることができたので、それに関連する事項を学ぶ際に、非常に取り組みやすいということを実感してます。
- ・ FTIR のスペクトル解析、高分子化学の PE、PP 等の構造、特性、用途の具体例の提示

材料工学科卒業生

- ・ 大学への編入学後、専門の実験にて、他の学生に比べて幅広い工学知識から問題解決が行えているように感じるので、上記 Q4 におけるエンジニアリング・デザイン能力は鈴鹿高専での履修課程で身についたと思う。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 21 年度専攻科修了生に対する「学習・教育目標」達成度及び満足度等アンケート調査

アンケート回答修了生の内訳

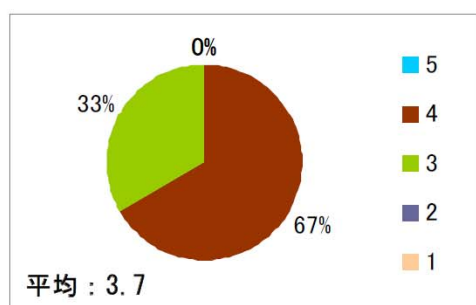
電子機械工学専攻修了生 2 名

応用物質工学専攻修了生 4 名

1. 修了時に学習・教育目標の「(A)技術者としての姿勢」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

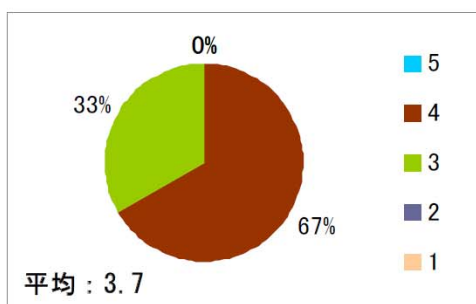
1. 全く身に付かなかった。]



2. 修了時に学習・教育目標の「(B)基礎・専門の知識とその応用力」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

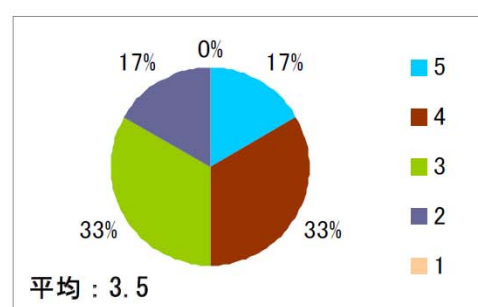
1. 全く身に付かなかった。]



3. 修了時に学習・教育目標の「(C)コミュニケーション能力」をどの程度身に付けられたでしょうか？

[5. 十分身に付いた。→→→→

1. 全く身に付かなかった。]

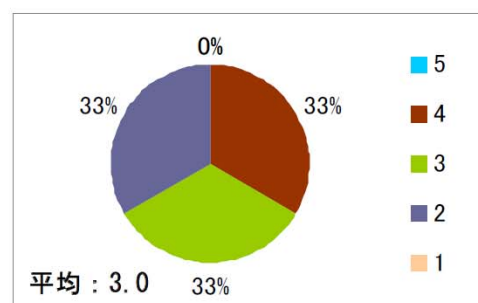


4. 修了時にエンジニアリング・デザイン能力*
注 を身に付けられたといえるでしょうか？

*注:必ずしも解が一つでない問題に対して習得した幅広い知識・能力を総合的に発揮して実現可能な解を見つけ出す能力

[5. 十分身に付いた。→→→→

1. 全く身に付かなかった。]



資料 6－1－⑤－4 続き

5. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

応用物質工学専攻修了生

- ・ 在学中に学会や研究会など、外部での発表の機会が得られたため大学院に進学後も学生として最低限のレベルは習得できた。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 22 年度学科卒業生の上司による「学習・教育目標」達成度評価等に関するアンケート調査

アンケート回答対象卒業生内訳

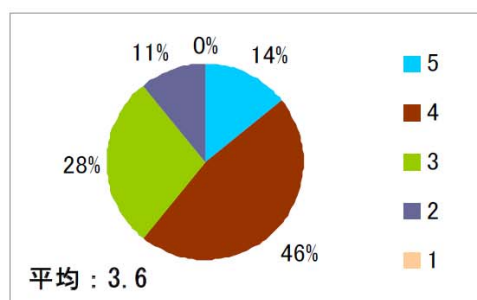
() 内は就職者総数

機械工学科卒業生	14 名	(17 名)
電気電子工学科卒業生	13 名	(24 名)
電子情報工学科卒業生	10 名	(23 名)
生物応用化学科卒業生	8 名	(21 名)
材料工学科卒業生	12 名	(15 名)

1. 学習・教育目標の「(A)技術者としての姿勢」をどの程度身に付けているでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→

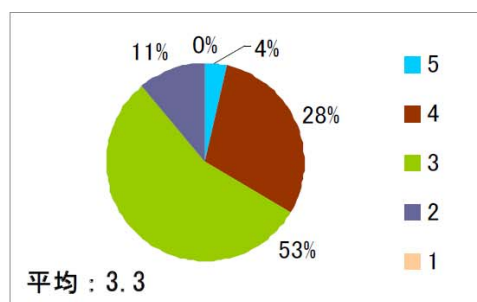
1. 全く身に付いていない。]



2. 学習・教育目標の「(B)基礎・専門の知識とその応用力」をどの程度身に付けているでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→

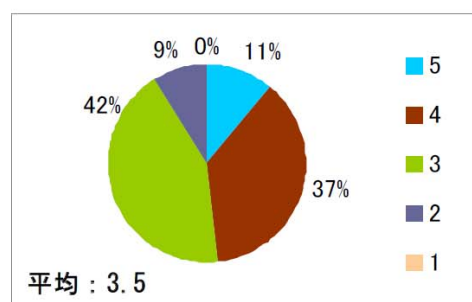
1. 全く身に付いていない。]



3. 学習・教育目標の「(C)コミュニケーション能力」をどの程度身に付けているでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→

1. 全く身に付いていない。]

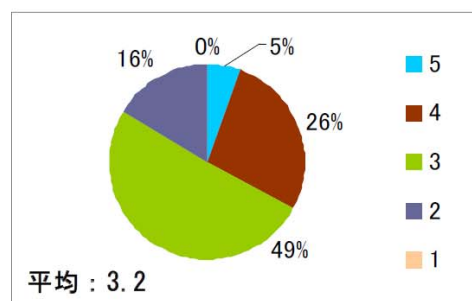


4. エンジニアリング・デザイン能力*注 が身に付いているといえるでしょうか？

*注:必ずしも解が一つでない問題に対して習得した幅広い知識・能力を総合的に発揮して実現可能な解を見つけ出す能力

[5. 十分身に付いている。 →→→→

1. 全く身に付いていない。]



資料 6 - 1 - ⑤ - 5 続き

5. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

機械工学科卒業生

- ・ 現在、当社の技術系社員として業務遂行を行う為のスキル修得を実施しておりますが、その中で熱力学(ランキンサイクル等)及び流体力学(ベルヌーイの定理等)についての基礎知識は必須であり、それらの基礎があつて、プラントの熱サイクルやポンプ等の設備の理解に役立っていきます。そういった理解する力は十分に備わっており、教育の成果を発揮できていると考えております。
- ・ 与えられた課題に対しての取り組み方などは、高専時代に培われた考え方や行動が出ていると思います。

など他多数

電気電子工学科卒業生

- ・ 本年9月に弊課に配属され、1ヶ月間製品の回転機について学習してもらいました。その成果を毎週パワーポイントでまとめて、部長・課長・指導パートナーの前で発表させました。技術的には専門分野であることから理解に時間を要すと承知しており特に評価するものではありません。プレゼンをすることで仕事のやり方や必要な知識・技術が何であるかをわかってもらうための指導・教育です。結果、人前でも動じることなく前向きに取り組む姿勢と意欲を持っており、今後に期待していきたいと思います。
- ・ 基本的な知識・技術は身につけており、電子回路の解析等 指導したことに対しては素直にこなせている。自らが一歩踏み出す積極性があればなお良いと思う。

など他多数

電子情報工学科卒業生

- ・ プログラミングの基礎ができており、同期入社の中では優れています。このように専門的なところは優れていますが、もう少し幅広い視野で物事が見られるようになるともっと良くなると感じます。
- ・ 社内での色々な社員教育を行なっていますが、与えられた課題に対しての取り組み方などは、高専時代に培われた考え方や行動が出ていると思います。また、先輩等にも自分の意見を主張する時は主張し、言われるがままの対応をしないところなどが、高専時代にイベントなどを引っ張っていた人格も見受けられます。

など他多数

生物応用化学科卒業生

- ・ 苦手とする業務の開始直前に、必要な器具を割ってしまったことから、精神的に落ち込んでおりました。フォローをしたのですが、本人はかなり動揺されておりましたので、その日のその業務は、外すべきと考えましたが、本人に尋ねたところ、是非頑張りたいとのことで実施して頂きました。その結果、スムーズに進み良好な結果が得られました。粘り強く責任感や向上心が発揮できております。コミュニケーションとしては、同期の中では周りに配慮する姿が多々伺えます。部活動などの成果でしょうか。
- ・ 医薬品製造ゆえ、現在は研修が主体となっていますので、Q4はまだ発揮する機会がなく未知数です。教育成果では、入社直後より上司・先輩への質問態度もよく、仲間として溶け込むコミュニケーション力は評価できます。

など他多数

材料工学科卒業生

- ・ 弊社では、ある一つの限定された分野における深い知識よりも、物事を多角的にとらえ柔軟に物事を判断することが求められていると考えております。材料工学科で学ぶ専門分野の知識がそのまま、弊社での業務とは直結することは多くはないと思いますが、高専で学ぶ自主性や工学的な考え方、またコミュニケーション能力は、大いに役立つと考えられます。
- ・ 現在、プラントの運転管理を担当している。勤務態度が良好で、自ら学習も行っており、自分の置かれている立場、なすべきことを自分で考え行動できている。

など他多数

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

平成 19～21 年度専攻科修了生の上司等による「学習・教育目標」達成度評価等 に関するアンケート調査(抜粋)

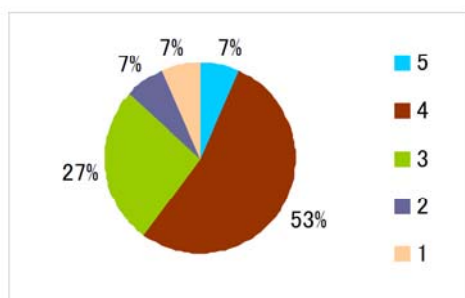
アンケート回答上司等内訳

勤務先上司 6 名

大学院指導教員 10 名

4. 本校専攻科の複合型生産システム工学プログラム修了生（JABEE プログラム修了生）は、学習・教育目標の「(A)技術者としての姿勢」をどの程度身に付けているでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→→
1. 全く身に付いていない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

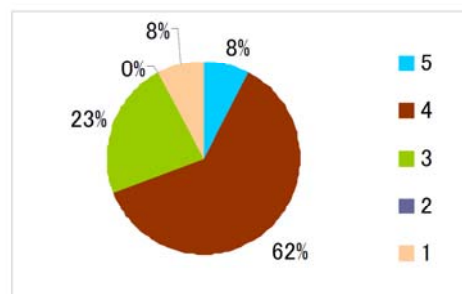
- ・ 視野に関しては、十分とは思えない。
- ・ 資料 3 の授業要覧から、「技術者論理」がどこで身に付くのか読み取れない。

大学院指導教員

- ・ 「厳しさ」の大切さが理解できていない様と思う。
- ・ <意欲>は十分すぎるほど。<技術者倫理>も妥当。しかし<視野>は疑問(そもそも目標が高すぎると思います)。

6. 本校専攻科の複合型生産システム工学プログラム修了生（JABEE プログラム修了生）は、学習・教育目標の「(B)基礎・専門の知識とその応用力」をどの程度身に付けているでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→→
1. 全く身に付いていない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

- ・ 各項目の達成レベルがわからないので、水準判断できません。
- ・ 課題に対して、自分で考え計画立案・実行できる基本能力は身に付けている。

大学院指導教員

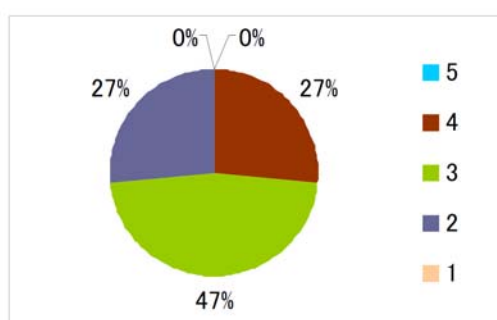
- ・ 専門の異なる研究を行っているため、判断できません。
- ・ 基礎学力に劣る。真の基礎を自ら考えさせて、修得させる方策が必要と思う。

資料 6 - 1 - ⑤ - 6 続き

8. 本校専攻科の複合型生産システム工学プログラム修了生（JABEE プログラム修了生）は、学習・教育目標の「(C) コミュニケーション能力」をどの程度身に付けているのでしょうか？

[5. 十分身に付いている。 →→→→

1. 全く身に付いていない。]



* 改善・改良すべき点等のご意見がございましたらご記入ください。

勤務先上司

- ・何を伝えたいか、誰に対しての報告か、自分の思い込みで話していないか、スピードなど会社での議論は卒論とはまたちょっと違う面もあるが、基本能力は身に付いている。

大学院指導教員

- ・自己の意見をしっかりと述べる事が若干苦手である。
- ・論理的に考え、自分の論理を相手に伝える練習が必要。
- ・英語でのコミュニケーションの一層の充実が望まれる。
- ・＜発表＞の能力は十分すぎるほど。

11. 貴社あるいは貴学大学院において、本校専攻科の複合型生産システム工学プログラム修了生（JABEE プログラム修了生）が本教育プログラムの成果として発揮できていると考えられることがございましたらご記入下さい。

勤務先上司

- ・自身の専門分野、技術について調査し、課題解決につながる情報の収集およびメンバーへの報告は出来ている。
- ・専門知識(機械系)を応用し、入社後すぐに製品開発業務で能力を発揮している点。
- ・課題解決に向けての計画立案・実行・評価といった一連の業務遂行において、指示待ちではなく自分から行動できている。化学工場の製造部門において検討を進める上では、“安全”確保が第一であり、検討中に当初計画からの変更が生じた場合など、上司への報・連・相を密にして進められること、自分の責任・権限はどの範囲かをよく理解した上で行動することは重要。

大学院指導教員

- ・基礎学力は身に付いている。
- ・留学生への対応がスムーズ。
- ・学会でのプレゼンテーション、研究者同士の討論が上手。大変良いトレーニングを受けていると思われます。
- ・材料等の教育が十分になされ、知識は十分である。

(出典 自己点検評価・改善委員会資料 抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関して、卒業（修了）生及び進路先からアンケートにより意見を聴取する取組を実施しており、その結果から、本校として期待する教育の成果や効果が十分に得られている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

卒業（修了）生が身に付けた学力や資質・能力について、各学科・各専攻の学習・教育目標達成度の評価方法・評価基準に基づいてその達成状況を把握・評価する体系的なシステムが構築されており、すでに実績もある。進級率、卒業・修了率、学士取得率、就職率、進学率などが例年高い水準を保っており、学生の学力や資質・能力の修得状況に関しては一定の成果が現れているといえる。学生自身による学習・教育目標達成度評価が実施され、詳細な分析が行われている。卒業（修了）から1年が経過した時点において卒業（修了）生及び卒業（修了）生を直接指導する立場にある上司を対象としたアンケートを行っており、これまでの集計結果から在学中に身に付けた学力や資質・能力に関してかなり高い評価を得ている。

(改善を要する点)

卒業（修了）生やその上司による高い評価と比べて、相対的に、在学中の学生自身による学習・教育目標の達成度評価が過小評価されている傾向にある。在学時から、自信を持たせる教育支援・指導が検討課題である。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

本校の「目的」は学科（専攻科）の学習・教育目標に反映されている。卒業（修了）生が身に付けた学力や資質・能力については、各学科・各専攻の学習・教育目標の達成度評価方法・評価基準に基づいて、その達成状況を把握・評価する体系的なシステムが存在し、効果的に機能している。そのシステムに沿った教育が行われた結果としての進級率・卒業率・修了率・資格取得状況等から判断して、学生は本校の教育「目的」が目指す学力や能力を身に付けており、教育の成果や効果が着実に上がっていることがわかる。卒業（修了）後の就職率・進学率が100%を満たしており、かつ本校が養成する人材像や専門性が活かされるような就職先・進学先が殆どである。学生自身による学習・教育目標達成度評価がなされ、おおむね標準以上の自己評価がなされており、かつ卒業（修了）後約1年経過した卒業（修了）生及びその上司によるアンケート結果から、本校卒業生及び修了生の資質・能力に関しては、本校の教育が意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像に照らした上でも、社会から高い評価を受けていることがわかる。